1998年度
講義計画

桃山学院大学

講　義　計　画

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
体育・スポーツ学講義	０１	前　期	２単位	永　谷　峯　男

［講義概要・学習目標］

体育・スポーツには、さまざまな要素が含まれています。

たとえば、健康や体力の面です。今の便利な生活による運動不足は、現代病をひきおこす大きな要因ですし、子供達や青少年の体力低下が指摘されて久しいものがあります。それは、生活習慣全般から考えなければなりませんし、これからは自己の責任と管理が必要なことは当然なことでしょう。

また、スポーツには、楽しみを主眼としたみんなのスポーツから、チャンピオンを目指すエリートスポーツまでさまざまです。するスポーツと観るスポーツ。そして、オリンピック等に代表される組織や大会は、ナショナリズムやビジネスにも繋がっています。

本講義では、二つのポイントをもって開講します。一つは健康論の基礎として、もう一つは社会・文化等の側面から考察します。諸君が体育・スポーツにたいし、自ら考えるとともに、実践する契機としての講義を目指します。

［講義計画］

Ⅰ　現代生活と健康
　①　健康的生活と現状の問題点
　②　生体のリズムと現代人の生活
　③　ストレスとスポーツ
　④　身体運動・体力づくり
Ⅱ　スポーツと社会
　①　体育・スポーツの歴史と変遷
　②　世界のスポーツ事情
　③　日本のスポーツ事情
　④　大衆そしてみんなのスポーツ

［成績評価の方法］

レポートとテストで評価します。

［教科書］

教科書は指定しません。必要な資料はプリント配布します。

［参考文献］

大塚正八郎（著）『学生の健康学』（大修館書店）
中村俊雄・出原泰明・等々力賢治（共著）『現代スポーツ論』（大修館）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
体育・スポーツ学講義	０２	前　期	２単位	長谷川　修一郎

［講義概要・学習目標］

機械文明が高度に発達した現代社会は、便利で安楽な生活環境を創りだした。

一方、１９６０年頃から「青少年のからだがどこかおかしい」と実感されるようになった。１９９４年に本学の体育担当者の共同研究で、全国の大学を対象に行った調査ではアレルギー疾患、すぐに「つかれた」と言う、すぐにしゃがむ、視力低下、腰痛、首筋がはったり肩が凝る、風邪を引きやすい等の症状がワースト１０の上位を占めた。動物としてのヒトは動くことを宿命づけられており、動くことによって生命が維持されているのである。まさに、ワースト１０の上位に表れた大半の症状は絶対的な運動不足の結果であり、「運動不足病」と言われている。そこで本講義では、便利で安楽な生活環境における健康・体力の獲得に向けた生活習慣の見直しを皆さんと共に考えたい。

［講義計画］

<前期>
Ⅰ.序論
Ⅱ.健康の概念の拡大
　1.最近の青少年「からだのおかしさ」
　2.「最近の青少年は体格がいいが、体力が低下している」と言われることの実態
　3.「健康観の」の社会的合意ーWHOの世界保健憲章ー
Ⅲ.現代生活と健康・体力
　1.現代社会における体力の意義
　2.生体リズムと生活リズム
　3.食生活と栄養（体脂肪測定の実施）
Ⅳ.生活の中での体力づくり
　1.体力の構成要素
　2.トレーニングの原則
　3.筋力トレーニングと持久力トレーニング（トレーニングルームでの授業）

［成績評価の方法］

レポートと小テストで４０点、前期末テストで６０点の合計で評価する。

［参考文献］

監修　宇土正彦　正木健雄　「青年の健康と運動」現代教育社

［教科書］

特に指定しない。必要に応じて資料を提供する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
体育・スポーツ学講義	03	後期	2単位	高橋　ひとみ

［講義概要・学習目標］
今日、スポーツは老若男女を問わず、すべての人にとって必要な生活の教養となってきている。教養としての「体育・スポーツ」とは、スポーツや運動と関わって、人間としての普遍的原理や社会的自立・正義などを身につけていくことであり、このようにして身につけたものを生活文化（知識や技術・態度）として、日常生活において生かせることを目的とした学習をする。

［講義計画］
まず、第Ⅰ章では、現代社会におけるスポーツの意義や問題、年齢・性に応じたスポーツのあり方とその方策、個人に適した運動の科学的な理論と処方、スポーツ実施における傷害対策などを学習する。
第Ⅱ章においては、「人生80年」と言われる長い生涯を健康でいきるために、健康を阻む社会問題を知るとともに、食生活や治療技術などの新しい知見についての学習をする。

［成績評価の方法］
定期試験および小テストを実施し、成績評価を行う。

［参考文献］
「健康生活と体育」　河本洋子編著　明研図書
「みんなのフイットネス」　前橋明編著　明研図書

［教科書］
「現代の保健体育」　浅田隆夫編著　学術図書出版社

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
体育・スポーツ学講義	04	後　期	2 単位	高（コ）　成（ソン）　廈（ハ）

［講義概要・学習目標］

現在では、健康を“WEIINES”（良好な状態）とらえる考え方が大勢を占めている。“WEIINES”は、個人の責任や管理のもとで、最適な健康を求めるライフスタイルとみなされている。したがって、健康は、できる限り良好な状態を実現するために生涯にわたって行なわれるアプローチである。
現代社会における健康についての問題点を十分に認識し、健康であることの意義を深く考え、健康的な生活習慣の確立と実践をねらいとする。

［講義計画］

Ⅰ　現代生活と健康・体力
1、都市生活と健康
2、スポーツと健康
3、体力づくりの理論
4、体力づくりの方法

Ⅱ　現代社会とスポーツ
1、現代社会の特徴とスポーツ
2、日本の体育・スポーツ行政の現状
3、日本のスポーツ施設の現状と問題点
4、諸外国のスポーツ事情

［成績評価の方法］

期間内テスト２回を課して評価する。

［参考文献］

石河利寛（著）「スポーツと健康」（岩波新書）

［教科書］

資料をプリント配布する。

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
体育・スポーツ学講義	０５	後　　期	２単位	今　西　俊　次

［講義概要・学習目標］

体育・スポーツ・レクリエーションは、現代社会において多様な価値をもっている。たとえば、今日のように“豊かで快適で便利な社会”になっても、人間は“動く物”であることを否定できない。“健やかに生きる”ということは、個人、家庭および社会にとって重要な課題であり、適度な運動は生涯を通して必要である。

本講義では、今日的な健康問題が発生する要因とその処方、日本と欧米のスポーツ事情、スポーツと社会・文化の関連等についての理解を深め、現代社会における体育・スポーツの役割と意義について考える。

［講義計画］

Ⅰ．現代生活と健康・体力
1.現代生活の特徴
2.生活習慣（運動・栄養）と健康
3.体重・体組成（体脂肪率）と健康
4.運動とからだ
5.体力づくりの理論的基礎
6.体力づくり（ｱﾈﾛﾋﾞｸｽとｴｱﾛﾋﾞｸｽ）の方法

Ⅱ．現代社会とスポーツ
1.諸外国（欧米）における体力づくりの歴史
2.日本におけるスポーツ・レクリエーションの現状と課題

［成績評価の方法］

感想、レポート、テストなどによって総合的に評価する。

［教科書］

教科書は指定せず、資料を配布する。

［参考文献］

石河利寛（著）『スポーツと健康』（岩波新書）
クラウス　他（著）　広田公一他訳『運動不足病』（ベースボール・マガジン社）
中村敏雄（著）『スポーツの風土』（大修館書店）

【概要】

「体育・スポーツ学実習（旧保健体育実技）」は、「健康トレーニングコース」「スポーツ文化コース」「シーズンスポーツコース」「レクリエーション・クリニックコース」「レクリエーション・スポーツコース」「スポーツトレーニングコース」からなり、種目別にクラスは編成される。各自、種目を選択し、予備登録ならびに履修登録すること。

なお、予備登録の方法については、別紙『「体育・スポーツ学実習」予備登録要領』を参照すること。

A．健康トレーニングコース

種　　目	対象	開講期間	単位認定基準
エアロビクス、ボディビルディング	全	半　期	12講時＋レポート
トータル・ボディ・シェイプアップ	女	半　期	

B．スポーツ文化コース

種　　目	対象	開講期間	単位認定基準
バレーボール、バスケットボール、水泳 硬式テニス、バドミントン、卓球、ゴルフ	全	半　期	12講時＋レポート
サッカー、ハンドボール、ソフトボール 軟式野球、室内サッカー	男		
女子トリム・ソフトボール	女		
剣道、柔道、ラグビー、スケート アーチェリー	休　　講		

※1．女子学生は、原則としてサッカー、ハンドボール、ラグビー、軟式野球、室内サッカーの登録は認めない。
2．ゴルフは打球費およびラウンド費などの経費を必要とする。
3．硬式テニス、サッカー、バドミントンに経験者クラスを設ける。

C．シーズンスポーツコース

1．スキーは、学内でストックワークなどの自主トレーニングを行い、**2月中旬にスキー場で集中実習を実施**する。
2．集中硬式テニス（初級者）・（経験者）は、**9月上旬に集中実習を実施**する。
3．集中ゴルフ（経験者）は、**12月下旬に集中実習を実施**する。

種　目	期　間	場　所	参加費	手続	備　考
スキー	2月中旬 （4泊5日）	戸隠スキー場	約28,000円 （リフト代別）	11月	01，02クラス
集中硬式テニス	①9月1～4日 ②　7～10日	学内テニスコート	な　し	7月	初級者クラス 経験者クラス
集中ゴルフ	12月下旬 （3泊4日）	未　定	約60,000円	11月	ラウンド経験者

※1．上記参加費以外に、旅費、交通費などの経費を必要とする。
2．スキーでは、リフト代、その他も必要である。
3．集中ゴルフは3日間で計3ラウンド実施する。
4．集中硬式テニスは1クラス4日間であるが、実施期間①・②のクラスは未定。

D．レクリエーション・クリニックコース

レクリエーション・クリニックコースは、個人の体力や能力に応じて運動処方する。主に身体虚弱者、肥満者、身体障害者および肢体不自由者などを対象とする。（このコースを希望する場合には、事前に体育課へ申し出ること）

種　　目	対　　象	開講期間	単位認定基準
クリニック	要保護者等	半　期	12講時＋レポート

※対象者以外で受講を希望する者は、体育課で相談すること。

E．レクリエーション・スポーツコース

種　　目	対　象	開講期間	単位認定基準
キャンプ、カヌー、レクリエーション・スポーツ	休　講		

F．スポーツトレーニングコース

このコースは、主として体育会に所属している学生を対象としているが、それ以外の一般学生の中でスポーツに関心のある学生の受講も認めている。内容は、専門的にスポーツを実践し、指導するのに必要なスポーツ科学の理論と実技を学習する。

種　　目	対　　象	開講期間	単位認定基準
スポーツトレーニング	体育会に所属している学生および一般学生	半　期	12講時＋レポート

〈実習受講に関する注意〉

(1) 単位認定

開講時間は12講時（24時間）＋レポートを原則とする。

(2) テキスト

必要に応じて指示する。

(3) 服　　装

服装はトレーニング・ウェア（水泳クラスは競技用水着・帽子・ゴーグル）を着用し、グラウンドではグラウンドシューズ、テニスコートはテニスシューズを使用すること。体育館・トレーニングルームにおいては、上ばき（体育館シューズ）を使用し、グラウンドシューズとの兼用は認めない。

(4) 更　　衣

指定された場所で更衣し、盗難防止のため貴重品は、各自、ロッカーに保管すること。特に前期・後期の授業開始直後は盗難が多い。

(5) 教　　場

グラウンド、コートなどの条件や行事によって、教場を変更する場合がある。毎時間掲示を確認すること。

(6) 用　　具

スポーツコースの用具は貸与するが、できるだけ各自で用意することが望ましい。シーズンコースについては実習時に必要な用具は各自で用意すること。

《注意》

更衣は指定された場所で行うとともに、必ず荷物をコインロッカーに入れ施錠すること。前期初めおよび後期初めの約１ヵ月間は特に盗難が多発している。また、スポーツシューズの盗難も多いので注意すること。

〈欠席の取り扱いについて〉

(1) 理由のある欠席届があれば２回までの欠席は認める。ただし、無届け欠席を２回するとその時点で受講を取り消す。

(2) ・クラブ公式戦、学外での合宿・発表会・演奏会等、およびゼミ合宿等による欠席は、クラブ部長・顧問、ゼミ教員等の証明により公欠とする。
・4回生以上の就職活動（会社訪問・受験）については、就職課の証明により公欠とする。
・忌引については、「公認欠席取扱規程」により、学生課で手続きすること。
(3) 体育実習の見学（例：風邪、腹痛、頭痛、服装の忘れ物等）は、原則として認めない。

〈施設・用具の利用について〉

授業中の教場には、受講生以外の立ち入りは禁止する。ただし、教場の空いている場合には、体育実習の自学自習およびスポーツ活動の恒常的実践化奨励のため、ひろく学内一般に施設の開放と用具の貸し出しを行うので希望者は体育課窓口に申し出ること。

使用可能場所・時間帯については体育館内掲示板で確認すること。ただし、雨天の場合は**館内施設は、外で行う授業の代替教場として使用するので、一般の利用は一時中止する。**

〈集中コース種目のガイダンスについて〉

集中コースの授業は、それぞれ事前にガイダンスを行うので必ず出席すること。授業と重なる場合は体育課窓口で相談すること。場所については追って掲示する。

(1)	集中硬式テニス（初級者）（経験者）	5月12日（火）	5時限目
(2)	スキー	10月22日（木）	5時限目
(3)	集中ゴルフ（経験者）	10月12日（月）	5時限目

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
人権問題Ⅰ （人権問題概説）	01 02	前　期 後　期	2単位 2単位	沖　浦　和　光

[講義概要・学習目標]

21世紀に生きる人類の課題は、次のようにまとめられる。
1）国際化、2）ハイテク情報化、3）自然と環境、4）平和と軍縮、5）社会的公正、6）諸民族の共存、7）人権 である。特に人権の問題は、新しい世紀を生きる人たちにとって、最も重要な課題となる。
近代西洋社会で論じられてきた「未開→半開→文明」という歴史進歩観念から、人種差別や先住民族差別が発生した。
また、インドのカースト制や日本の部落差別にみられるように、前時代の身分差別がまだ現存している。そのような現状を分析しながら、人権にかかわる諸問題について考えてみたい。ビデオ教材もできるだけ用いて分かりやすく話をすすめる。

[講義計画]

1．人種差別の歴史と実状
2．日本民族はどこからきたのか
3．日本の先住民・アイヌ民族
4．オーストラリア大陸のアボリジニ
5．インドのカースト制
6．日本の部落差別
7．女性差別の歴史と現状
8．21世紀は「新しい人権の時代」

[成績評価の方法]

期末のテストによる

[参考文献]

その都度指示する

[教科書]

沖浦和光（著）『天皇の国・賤民の国』（弘文堂）
野間宏・沖浦（共著）『日本の聖と賤（中世篇）』（人文書院）
三国連太郎・沖浦（共著）『浮世の虚と実』（解放出版社）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
人権問題Ⅱ （人権の思想と歴史「世界」）	01 02	前　期 後　期	2単位 2単位	柳　父　章

[講義概要・学習目標]

「人権」という考え方は西洋で始まった。その歴史もそれほど古いことではない。西洋で始まった「人権」は、やがて世界中に広められた。日本国憲法の中心にも「人権」という考え方がある。世界中に広められるとともに、「人権」とは西洋中心の考えであるという批判も起っている。このような歴史や問題点を、広い背景から考えていきたい。

[講義計画]

日本における人権の思想と運動
カースト制と部落差別
イギリス、フランス、アメリカにおける人権の歴史
現代アジアにおける人権の問題
マイノリティと人権

[成績評価の方法]

期末試験による。

[参考文献]

[教科書]

樋口陽一著『一語の辞典　人権』三省堂　¥1000

＜社会福祉学科生対象外＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
人権問題Ⅲ（現代社会と人権）	０１ ０２	前　期 後　期	２単位 ２単位	沖　浦　和　光

［講義概要・学習目標］

今日の世界で、よく知られている身分制はインドの「カースト制」である。この差別と類似した制度が日本の「部落差別」である。

いずれもケガレ意識によって、被差別民を「人外の人」として社会的に隔離する政策をとった。しかし、＜死・産・血＞の三不浄を中心とするこのケガレ観念はエセ宗教観念であって、政治権力を握った支配身分によってつくられた政治的システムである。女性差別や障害者差別も、この問題と深く関わっている。

彼ら賤民とされた人びとが、文化・芸能・宗教、また産業技術や商業流通においても大きい役割を担ってきたのであった。

ビデオ教材も多く用いて、分かりやすく話をすすめたい。

［講義計画］

1．インドのカースト制
2．天皇制国家と日本の身分差別制度
3．女性差別とケガレ思想
4．人間平等を説いた鎌倉民衆仏教
5．日本文化を支えた賤民芸能
6．被差別民の担った産業技術
7．人間の自由と平等を目ざした社会運動の興隆
8．２１世紀は新しい「人権の時代」

［成績評価の方法］

期末のテストによる

［参考文献］

その都度指示する

［教科書］

沖浦和光（編）『日本文化の源流を探る』（解放出版社）
沖浦和光（著）『竹の民俗誌』（岩波新書）
野間　宏・沖浦和光（共著）『アジアの聖と賤』（人文書院）

＜社会福祉学科生対象外＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
人権問題Ⅲ （現代社会と人権）	０３	後　期	２単位	生　瀬　克　己

［講義概要・学習目標］

「伝染病の恐怖はもはやなくなった…」などと思い込んでいると、Ｏ１５７のような、思わぬ強敵におそわれたりする。そして、そのようなときに、われわれは想像さえしなかった差別の現実をあらわにしてしまったりする。そんなことを考えると、われわれは、「病人」と「病気でない人」との関係や「病人」と「病人でない人」との連帯関係のあり方さらには、これら両者の連帯関係の高め方といったような諸課題に関心をいだかざるをえない。「貧乏→病気→貧乏」の悪循環のなかにあった戦前期の日本社会、そこからは脱出できたかに見えていて、高齢者と病気をめぐる諸問題、「脳死」や「植物人間」のような「死の判定」をめぐる問題といったように、新しい諸課題はあまたある。

こうした病気の変化と病人への処遇の変遷をさぐることで、病人と社会の関係、病人をめぐる人間の連帯関係のあり方を考えていきたい。

［講義計画］

1はじめに――「病人史」は何を教えてくれているか？
2いわゆる「伝染病が恐怖」の時代
3「生涯隔離」されたハンセン病者たち
4精神障害者たちと地域社会
5結核と働く人びと
6戦後社会と医療技術の革新
7いわるゆ「高度成長期」の病人たち
8おわりに――病人史から学ぶもの

［成績評価の方法］

学期末に実施する「論述式筆記試験（６０％）」と、講義期間中に数回は実施する予定の「レポート（４０％）」の合計点で評価する。

［参考文献］

そのときどきに指示します。

［教科書］

とくには指定しません。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
人権問題Ⅳ （在日韓国・朝鮮人問題）	01 02	前　期 後　期	2単位 2単位	キム　スギル 金　秀吉

［講義概要・学習目標］

現在、約65万人の韓国・朝鮮人が日本に定住している。この定住者を一般的に「在日韓国・朝鮮人」と称している。また、時には略して「在日」とも言われる。

本講義を担当する私自身は在日三世であり、その体験をふまえながら、在日韓国・朝鮮人のく過去・現在・未来〉を出来るだけ具体的に提示し、そのことへの理解と認識を深めてゆく。

その方法として、これまでに在日韓国・朝鮮人を素材、またはテーマとして作られた映画（自作『潤〈ユン〉の街』や『いちばん近くに』などを含む）や、テレビ・ビデオ作品などのビデオをテキストとして積極的に利用することにより、在日をとりまく状況が、より具体化され、学生各自が身近なところから実践的に、在日韓国・朝鮮人問題の基礎を観念的に陥ることなく探求してゆく。

［講義計画］

1. 在日韓国・朝鮮人問題とは
2. 「在日」の歴史
3. 「在日」の現状
4. 「在日」はどのように表現されてきたか
5. 在日韓国・朝鮮人の未来と展望

［成績評価の方法］

講義中の小レポートを平常点とし、それに期末のペーパーテストの結果を合わせ、総合的に評価する。

［教科書］

［参考文献］

蔵田雅彦(著)「隣人としてのアジア」(日本基督教団出版局)
田中宏（著）「在日外国人（新版）」（岩波新書）
鄭早苗・徐正禹(監修)「新・よりよき隣人として」(KMJ研究センター)
桃山学院大学（編）「定住外国人の人権（改訂版）」(桃山学院大学)

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
人権問題Ⅴ （障害者問題）		前　期	2単位	生瀬克己

［講義概要・学習目標］

世の中の人びとをかりに「障害とともに生きている人」と今のところは「障害に関係ない人」に分けてみると、このどちら側の人にとっても、生きる目標がもてて、生きがいのある社会にすることを「ノーマライゼーション」と呼んでいる。

その場合、障害のある人が思うだけ「社会に参入」していくためには、それにふさわしいシステムを社会の側で用意しなければならないだろう。だが、それだけでは、たぶん、十分ではないだろう。障害のある人も、ない人も、それぞれの側から望ましい「共生社会」がどのようなものかをみきわめながら、その方向にむかっての、双方からの工夫と努力が必要なのだろう。そうした意味での「工夫」と「努力」はどのようなもので、いかにして、それらをなしとげうるかを考えることにしたい。

［講義計画］

1はじめに――
2わが国におけるノーマライゼーションへの道
3障害者のいる社会――「共生」社会
4障害者は「何」をするのか
5障害のない人は「何」をするのか
6おわりに――双方が快適な「共生」社会を求めて

［成績評価の方法］

学期末に実施する「論述式筆記試験（６０％）」と、講義期間中に数回は実施する予定の「レポート（４０％）」の合計点で評価する。

［教科書］

とくには指定しません。

［参考文献］

そのときどきに指示します。

<社会福祉学科生対象外>

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
人権問題Ⅵ （部落問題）	01 02	前期 後期	2単位 2単位	三宅正彦

[講義概要・学習目標]

部落差別の本質と歴史を解明し，部落解放への過程を追究する。

[講義計画]

(1) 人権と差別
(2) 身分差別と賤視制の国際的意義
(3) 日本古代の賤視制
(4) 日本中世の賤視制
(5) 部落の起源と日本近世の賤視制
(6) 日本近代の身分制と部落差別
(7) 部落解放への取り組みと現代の課題

[成績評価の方法]

期末試験

[教科書]

授業時にコピーを配布する。

[参考文献]

授業時にコピーを配布する。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
人権問題Ⅵ （女性問題）		後期	2単位	生瀬克己

[講義概要・学習目標]

多くの人びとは、たがいの異性とともに生きてきた。しかし、その形はその時々で違っていた。そして、近代になって、男女平等がさけばれるが、他方では、男性は社会で働く女性は家庭で家事・育児をするというような性別役割が固定化していく。だが、女性が社会に出て活動するのが当たり前の社会になってくると、こうした形態は不都合なことが多くなってくる。とくに、女性にとってはそうである。そして、それは、男性にとっても「息苦しい」ものである。そこで、男女のそれぞれが精一杯に生きていける社会とはどのようなものかということを考えていきたい。

したがって、われわれ、ひとりひとりのなかでの「共生」の課題を発見していくことが目標である。

[講義計画]

1 はじめに――「女性」のことがなぜ問題にされだしたのか？
2 前近代の身分と人びとの暮らしと働きかた
3 性別役割分業の社会
4 「男らしさ」と「女らしさ」
5 女性の働く場の現実
6 男女が「共に働き」「共に生きる」社会
7 おわりに――われわれの現実と目標

[成績評価の方法]

学期末に実施する「論述式筆記試験（60%）」と、講義期間中に数回は実施する予定の「レポート（40%）」の合計点で評価する。

[教科書]

とくには指定しません。

[参考文献]

そのときどきに指示します。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
世界の文化Ⅰ （インドネシアの文化と社会）	01 02	前　期 後　期	2単位 2単位	小　池　誠

［講義概要・学習目標］

近年，東南アジアに対する関心が高まっている。この講義ではインドネシアを取り上げ，歴史と言語，民族の構成，多様な地方文化から始めて，今まさに変化しつつあるインドネシア社会と文化の現状までをテーマとして講義を進める。多様な文化のあり方を理解するために伝統音楽や舞踊などの民族芸能だけでなく，映画・ポップス・テレビなどの現代のポピュラー文化なども題材に取り上げたい。受講者の関心と理解を深めるために，できるかぎりビデオなどの視聴覚教材を使用する予定である。受講者にはインドネシアの民族的・文化的多様性をその歴史的背景とともに知ってもらいたい。それとともに，インドネシア国民が現代の国家体制のなかでどのように生き，そして自分たちの文化を表現しているのか理解してもらいたい。

［講義計画］

1　インドネシアへのアプローチ法
2　インドネシアの歴史と宗教
3　多様なインドネシア語の世界
4　インドネシアの地方文化
　（スンダ・ジャワ・バリ・スンバ）
5　インドネシアの民族問題
　（イリアンジャヤと東ティモール）
6　インドネシアのポピュラー文化
　（テレビ・ポップス・映画）

［成績評価の方法］

期末試験の成績を基本にして評価する。ただし，必要に応じて提出を求める小レポートの成績も考慮する。

［教科書］

［参考文献］

綾部恒雄・石井米雄編「もっと知りたいインドネシア第2版」弘文堂
関本照夫・船曳建夫編「国民文化が生まれる時」リブロ
松野明久編「インドネシアのポピュラー・カルチャー」めこん
宮崎・山下・伊藤編「アジア読本　インドネシア」河出書房新社

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
世界の文化Ⅰ （日本のなかの外国文化Ⅰ）		前　期	2単位	片　倉　穰

［講義概要・学習目標］

日本のなかの外国文化を歴史的に考察する。前期では、『古事記』などの基本的文献を活用し、古代日本の神話、「英雄叙事詩」、稲作儀礼や葬儀などにみられる外国文化の影響を吟味・検討し、古代日本の文化がアジアなどの諸外国と、いかにかかわり、これらとどう異なるのかを検討する。近年の考古学・神話学・文化人類学その他の研究成果を踏まえて解説し、あわせていくつかの問題点を提起する。

この講義の目標は、日本文化と外国文化のかかわり、日本文化の多様性と独自性を解明することにある。

［講義計画］

（前期）（1）はじめに ― 「日本文化論」批判
（2）神々の系譜 ― 比較文化論の試み
（3）『古事記』にみられる「英雄叙事詩」
①カミヤマトイワレヒコ
②オキナガタラシヒメ
③ヤマトタケル
（4）日本の稲作儀礼と外国文化
（5）葬儀の話
（6）『万葉集』のなかの外国
（7）その他 ― いくつかの課題

［成績評価の方法］

講義中に実施される小テスト（レポート）および期末試験等により評価する。

［教科書］

とくにない。

［参考文献］

倉野憲司校注『古事記』〈岩波文庫〉（岩波書店、1963）
柳田国男・安藤広太郎・盛永俊太郎他『稲の日本史』上・下（筑摩書房、1969）
渡部忠世責任編集『稲のアジア史』1～3（小学館、1987）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
世界の文化Ⅰ （日本のなかの外国文化Ⅱ）		後　期	2単位	片　倉　穰

［講義概要・学習目標］

前期に引き続き、中世から近世をへて近代にいたる日本のなかの外国文化について考察する。この時期の日本には、朝鮮・中国だけでなく、北方民族や西洋の文化が伝来し、この国の歴史や文化に少なからぬ影響を及ぼした。

この講義では、こうした外国文化との接触・受容をめぐって生じた諸問題について考察し、かつ、外から日本文化の形成過程とその特徴を論じる。

［講義計画］

（後期）（1）はじめに ― 古代から中世へ
（2）中世日本と中国文化
（3）遊牧民族との出会い
（4）隣国朝鮮への憧れ ― 『大蔵経』を求めて
（5）日本のなかの「南蛮文化」
（6）朝鮮通信使と日本人
（7）日本の伝統文化と「文明開化」
（8）おわりに ― まとめ

［成績評価の方法］

講義中に実施される小テスト（レポート）および期末試験等により評価する。

［教科書］

とくにない。

［参考文献］

映像文化協会編『江戸時代の朝鮮通信使』（毎日新聞社、1979）
田中彰『「脱亜」の明治維新 ― 岩倉使節団を追う旅から』（日本放送出版協会、1984）
岸野久『西洋人の日本発見 ― ザビエル来日前　日本情報の研究』（吉川弘文館、1989）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
世界の文化Ⅰ （海域アジアの森と海の文化）	01 02	前　期 後　期	2単位 2単位	深　見　純　生

［講義概要・学習目標］

「海域社会」という観点からアジアの社会を見直してみる。常識つまり「陸域」中心の観念から自由になることによって見えてくる重要な事柄がいくつかある。

海域社会の典型的な姿は東南アジアに見ることができる。地球上で唯一の「島の熱帯」であり、その海が「生活者の海」であり、海のシルクロードの大幹線が通っているからである。「島の熱帯」の森と海は、国際交易と結びついていっそう重要性を明らかにする。この世界のモンスーンの支配性もまた重要である。こうした海域社会を理解するためのいくつかの手掛かりを考える。

授業はビデオを多用する。映像によって東南アジアの森と海の様々な側面とそこに生きる人々の多様な姿を観ることを通して、その文化の有り様を考えてみたい。

［講義計画］

1．「島の熱帯」の生態学
　熱帯雨林の特徴／その人間にとっての意味／居住適地
2．モンスーン
　風向と季節／その重要性
3．「海域社会」
　その特徴／「海域アジア世界」の中の東南アジア／史的展開

［成績評価の方法］

時々の小レポートと期末試験を総合して評価する。

［教科書］

［参考文献］

京都大学東南アジア研究センター編『事典東南アジア　風土・生態・環境』弘文堂　1997
〔桃図R292.3〕
門田修『海が見えるアジア』めこん　1996　〔桃図A292.09〕
家島彦一『海が創る文明』朝日新聞社　1993　〔桃図A225.9〕
その他教室で時々に指示する。

<社会福祉学科生対象外>

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
世界の文化Ⅰ (物流を考える)		前期	2単位	野尻　亘

［講義概要・学習目標］

流通とは、空間的に隔った生産者と消費者を結びつける経済活動であり、経済地理学の重要なテーマの一つである。

流通は大きく、(1)商取引流通、(2)物流、(3)情報流に三大別できる。

このうち物流は、生産物を消費地に輸送する活動からなっている。今日、それはコンピュータ通信の発達により、コンビニエンス・ストアーのレジから販売と同時に売り上げが本部に報告され、すぐに商品の不足分が納入されるなど、新しいシステムがとられている。

授業では、これらのさまざまな物流システムについて紹介すると共に、産業社会学・経済学・経営学との関連からみた諸課題について考察することとしたい。

物流は新しい分野であるために、研究者が少ない。そこで他の大学にはみられない、かつ実社会に出てから有効な内容の授業を提供することとしたい。

［講義計画］

1. 物流とは何だろう
2. 経済における物流の位置
3. 流通と物流の違い
4. 物流と私たちの生活
5. 物流と公害
6. 宅配便の発展
7. 輸送パターンと物流
8. 広域物流センターの立地
9. 物流の情報化・共同化
10. ジャスト　イン　タイム方式
11. 国際物流の展開
12. CALSとは何か
13. 物流政策の変遷
14. 今後の物流の課題

［成績評価の方法］

レポートにするか試験にするかは授業の進度と履習状況をみて決定する。
出席をとる。

［教科書］

中田信哉『入門の入門　物流のしくみ』日本実業出版社

［参考文献］

野尻　亘『日本の物流－産業構造転換と物流空間－』

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
世界の文化Ⅱ （アメリカン・ドリーム）	01 02	前期 後期	2単位 2単位	谷本泰三

［講義概要・学習目標］

「アメリカン・ドリーム」をテーマにして初期のアメリカの歴史を見て行く。

最初ヨーロッパからアメリカ大陸へ移住してきた人達はどのような夢を抱いて、果てしない大海、大西洋を渡ったのだろう。夢を実現しようとして、どの様な努力をし、どのような苦労があったのだろう。栄光と挫折が交錯する様子を、見ながら初期の歴史を辿る。「アメリカン・ドリーム」を許されなかった人たちの現状にもにも注目する。

［講義計画］

1　序論
2-4　Puritan たちの夢と現実
5-7　Puritanism からの離脱　新国家建設への夢
8-9　独自の文化樹立への夢
10-11　アメリカン・ドリームの外に立たされていた人たち
12　予備

［成績評価の方法］

期末試験

［教科書］

Winton U. Solberg （著）*A Hsistory of American Thought and Culture* （金星堂）
谷本泰三（著）『講義アウトライン』

［参考文献］

開講時に指示する

<社会福祉学科生対象外>

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
世界の文化Ⅲ （御伽草子の世界）	01 02	前期 後期	2単位 2単位	三浦俊介

[講義概要・学習目標]

御伽草子（「室町時代物語」ともいう）は、日本の中世・近世にわたって３００編以上製作された絵入り短編物語である。御伽草子は、内容の平易さ、挿絵の楽しさなども相俟って、京・大坂を中心に大変な人気を博した。本講座では、一日一作品を基本に作品を１０編ほど読む。御伽草子を通して古典嫌いの人にも日本古典文学の面白さを体験してもらいたい。しかし、残念ながら講義時間内に本文を通読する時間はない。講義はシラバス通りに行うので、講義前に作品を一読しておくこと。

[講義計画]

1 名称と定義　2 本文と挿絵　3 文正さうし　4 鉢かづき
5 小町草紙　6 御曹子島渡　7 猿源氏草紙　8 物くさ太郎
9 蛤の草紙　10 小敦盛　11 梵天国　12 和泉式部
13 横笛草紙　14 酒呑童子　15 まとめ

[成績評価の方法]

①出席を何回か取る。一度も出席していなかった者は不合格とする。
②定期試験の成績を重視する。毎回出席していても不合格はあり得る。

[教科書]

市古貞次校注『御伽草子（上・下）』（岩波文庫）岩波書店

[参考文献]

講義中に随時紹介する。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
世界の文化Ⅳ （イギリス小説を面白く読む）		前期	2単位	中村祥子

[講義概要・学習目標]

この講義では、チャールズ・ディケンズの長編小説『オリヴァー・トゥイスト』を取り上げて、小説の面白い読み方について論じてみたい。ディケンズは時代を越えたベスト・セラーズ作家である。そのわけは、ディケンズの小説には、彼の生きた時代の社会問題が常に正面から取り上げられているからである。その社会問題というのは、貧富の差の拡大・環境破壊・政界の腐敗・官僚の横暴等々であり、今日私たちが生きている時代の社会問題が、まるで先取りされたかのような形で、作品の中に描かれている。しかも、こうしたシリアスな内容の小説を、ディケンズは実に面白い、読者をわくわくさせる物語に仕上げているのである。また、推理小説の元祖でもあったディケンズが、読者に仕掛けた様々な工夫に挑戦し、張りめぐらされた伏線の数々を読み解いていく時の魅力も大きいものである。このようなディケンズの小説を一つの素材として、優れた文学作品を読むことの意義と、真の面白さをも、併せて考えていきたい。

[講義計画]

① チャールズ・ディケンズについて、その時代・社会・人物・作品などを論じる。
② 『オリヴァー・トゥイスト』分析。

[成績評価の方法]

期末試験の成績と平常の成績の総合評価による。平常の成績には、出席状況の他に、授業中に指示した読了文献（テキストやプリント類を含む）をどれだけ真面目に読んできたかをも加味する。

[参考文献]

授業中に指示する。

[教科書]

C．ディケンズ著，小池滋訳『オリヴァー・トゥイスト』上・下，ちくま文庫（筑摩書房）

＜社会福祉学科生対象外＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
世界の文化Ⅳ （フランス文学とその背景）	01 02	前　期 後　期	2単位 2単位	中　所　聖　一

［講義概要・学習目標］

わたしたちが一つの国（地域）の文化を理解しようとする際，現在，表層に現れている現象を解釈する他に，そこに残されてきた，いわゆる古典を知るという方法も有効であるに違いありません．この授業では，フランス文学の基盤であるケルト文化，ギリシア・ローマ文化，そしてキリスト教を意識しつつ，19世紀末までの主要作品を概観します．個々の作品解釈にとどまらず，それらを通して，その時々の社会および思想的背景をみなさんに汲み取ってもらいたいと思います．それゆえ，授業で取り挙げる作品は必ずしも純粋な文学作品とは限らず，時事的なもの，いくぶん哲学的なものも含まれますが，作品のタイプに応じて，文学作品分析のモデルを，あるいは，語られる思想の意味するところを提示してゆくことになるでしょう．それらをあくまでも大きく，流れとして把握することによって，フランス文化（フランス的思考）を理解してもらおうと考えています．

［講義計画］

①フランス文学の基盤
②伝説から物語へ
③ルネサンス期におけるユマニスムと荒唐無稽
④「理性」と「情念」
⑤啓蒙思想と教育小説
⑥ロマン主義と写実主義・自然主義

［成績評価の方法］

必ず読んでもらう作品（3～4作）を指定し，それぞれについてのレポートを，時期をずらせて提出してもらいます．それに出席状況や臨時テストを加味して，総合評価します．

［教科書］

なし．随時，プリントを配布する．

［参考文献］

渡辺一夫・鈴木力衛 著，『増補 フランス文学案内』，岩波文庫．

＜社会福祉学科生対象外＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
世界の文化Ⅳ （芸術・言語・価値観の比較）	01 02	前　期 後　期	2単位 2単位	Terence J.O'Brien

［講義概要・学習目標］

このコースの目的は、日本、英国、米国間の文化言語、芸術、社会価値感等の違いについての比較を講義するつもりです。注意深く聞きとり、特にノートを取る事などが要求されます。講義中のポイントについてはよく考えなければなりません。
このコースは英語での講義ですが出来るだけわかり易い表現法で行うつもりですのでみな英語に自信が持てる様になるのでは?! この講義に参加してみてはいかがですか?

［講義計画］

［成績評価の方法］

出席と2回のテストによって評価される

［教科書］

プリントを用意します.

［参考文献］

＜社会福祉学科生対象外＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
世界の文化Ⅳ （映画の歴史・映像表現論Ⅰ）		前　期	2単位	水　口　薫

［講義概要・学習目標］

人間はコミュニケーション（伝達）の手段として、言語、文字、絵画、写真のメディアを発明し、記録、表現してきた。そして、映画が誕生して一世紀になる。

映画（映像）は、今までのメディアと違って、時間経過を記録する。時間の記録は、世界の状況を伝え、映画言語を生みだし、その表現方法から芸術が生まれた。

本講義では、動く絵の原理、映画の発明、その歴史、映画言語を理解し、映画を見ることによって、人間を、また異文化を理解するためのメディア・リテラシー（読み書き能力）を身につけることをめざす。

［講義計画］

「映画の歴史 1」

1　動く映像とは？
2　映画の発明
3　映画言語とは？
4　映画の発達
5　メディア・リテラシーとは？
6　映画のジャンル、劇映画と記録映画
7　日本映画とハリウッド

［成績評価の方法］

試験とレポート、出席点にて総合評価。欠席（公欠等事務書類ある場合を除く）6回の者は不合格。

［教科書］

適時、プリントを配布。

［参考文献］

『映画の教科書　どのように映画を読むか』
ジェイムズ・モナコ（著）岩本憲児、内山一樹、杉山昭夫他（編）（フィルムアート社）
『メディア・リテラシー　マスメディアを読み解く』
カナダ・オンタリオ州教育省（編）FCT（市民のテレビの会）（訳）（リベルタ出版）
その他、講義のときに提示する。

＜社会福祉学科生対象外＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
世界の文化Ⅳ （映画の歴史・映像表現論Ⅱ）		後　期	2単位	水　口　薫

［講義概要・学習目標］

映画（映像）誕生から100年の歴史のなかで、人間は、映画に使って世界を記録、また表現し、コミュニケーション（伝達）の手段として、あらゆる面で利用してきた。

その多彩な表現方法の発達は、世界各地での記録と映画芸術を生みだした。そこには、民族の歴史、文化、習慣が色濃く現われている。

本講義では、その歴史、映画言語、ジャンルを理解し、映画を見ることによって、映像の力、影響力を認識し、人間を、また異文化を理解するメディア・リテラシー（読み書き能力）を身につけることをめざす。

［講義計画］

「映画の歴史 2」

1　映画言語とは、映像表現とは？
2　メディア・リテラシーとは？
3　映画のジャンル、劇映画と記録映画
4　映画産業とハリウッド、ヨーロッパ
5　日本映画とアジア映画
6　新しいメディア、テレビの力
7　映画の未来、コンピューターの可能性

［成績評価の方法］

試験とレポート、出席点にて総合評価。欠席（公欠等事務書類ある場合を除く）6回の者は不合格。

［教科書］

適時、プリントを配布。

［参考文献］

『映画の教科書　どのように映画を読むか』
ジェイムズ・モナコ（著）岩本憲児、内山一樹、杉山昭夫他（編）（フィルムアート社）
『メディア・リテラシー　マスメディアを読み解く』
カナダ・オンタリオ州教育省（編）FCT（市民のテレビの会）（訳）（リベルタ出版）
その他、講義のときに提示する。

＜社会福祉学科生対象外＞

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
世界の文化 Ⅳ （樋口一葉と手紙の書き方）		前期	2単位	佐藤慶子

［講義概要・学習目標］

樋口一葉は、二十二編の小説以外に、膨大な量の、小説の下書き、日記、和歌、手紙などを残したが、その中に、彼女の死の半年前に刊行された「通俗書簡文」がある。さまざまな用途に応じた手紙の書き方の例文集である。一葉を知り、彼女の作品を読む上で、大いに参考になるだけでなく、現在の我々が手紙を書く場合にも、非常に役立つものである。なるべく学生に関心のありそうな手紙を選んで教材とするので、自身の心の籠め方、相手の心の捉え方も学んでほしい。「帰省せし人の秋に入りても帰らねば都の友より」、「退校せんといふ友を諫むる文」、「事ありて中絶えたる友のもとに」、「試験に落第せし人のもとに」などは、今でもすぐに利用できそうであるし、「娘の躾を人にたのむ文」、「離縁を乞はんといふ人に」、「不縁に成し人をなぐさむる文」、「愛子をうしなひし人のもとに」などは将来、必要にならないとも限らない。一葉の隠れた一面が伺えるものでもあろう。

［講義計画］

担当範囲を割り当てて、発表させ、質疑応答と討論で授業を進める。発表者以外の学生にも意見を求めるので、積極的な参加を期待している。

［成績評価の方法］ 毎回、講義開始時、十分間を当てて、前回の理解度を確認し、その日につなげるためのレポートを作成させ、平常点とするので、無遅刻、無欠席に努めてほしい。出席を最重視とする。期末試験に、授業中の発表、態度を加算し、総合評価する。

［教科書］

コピー配付。

［参考文献］

①「樋口一葉全集、第四巻（下）」筑摩書房
②森まゆみ「かしこ一葉――『通俗書簡文』を読む――」筑摩書房

＜社会福祉学科生対象外＞

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
世界の文化 Ⅳ （樋口一葉と比較文学）		後期	2単位	佐藤慶子

［講義概要・学習目標］

文学研究のひとつの方法である比較文学的に樋口一葉を探ってゆくと、そこには何が見えてくるのであろう。まず、比較文学とはどんな学問であるのかを考える。ヨーロッパでの起源から、日本に伝わった後の変容まで、その足跡を辿り、比較研究と混同されやすい、対照研究との違いを明らかにする。その上で、比較文学を応用した、樋口一葉研究を考える。一葉は平安朝文学を愛し、初期の作品には、その影響が色濃く現れている。彼女が小説の師に選んだ半井桃水は、その頃、新聞小説作家であったが、かつて大阪朝日新聞社の海外特派員として朝鮮に赴任したことがあり、青年時代に父親の仕事の関係で滞在して身に付けた朝鮮語を生かして、記者として活躍しただけでなく、朝鮮の古典小説を日本に紹介するのにも一役買った。彼は一葉にも、朝鮮の友人や小説について語り、彼女はそのことを日記で語っている。彼女の小説にもその影響があるはずだというのが私見である。

［講義計画］

講義形式であるが、意見を求めるので、積極的に発表してほしい。

［成績評価の方法］ 毎回、講義開始時、十分間を当てて、前回の理解度を確認し、その日につなげるためのレポートを作成させ、平常点とするので、無遅刻、無欠席に努めてほしい。出席を最重視とする。期末試験に、授業中の発表、態度を加算し、総合評価する。

［教科書］

樋口一葉「たけくらべ・にごりえ」角川文庫。
上記以外に、適宜、コピーを配付する。

［参考文献］

①「樋口一葉全集、第一、二巻」筑摩書房
②松村昌家編「比較文学を学ぶ人のために」世界思想社
③渡邊洋「比較文学研究入門」世界思想社
④亀井俊介編「現代の比較文学」講談社学術文庫

＜社会福祉学科生対象外＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
世界の文化Ⅳ　（映画に見るアメリカ文化）		前期	２単位	石塚浩司

［講義概要・学習目標］

イノセンス、ピュリタニズムなどの単一の視点からアメリカ全体を包括的に語る時代は遠い昔のこととなった。１９６０年代以降、アメリカは、少数派の自己主張にともない、黒人（アフリカン・アメリカン）、先住民（ネイティヴ・アメリカン）、アジア系アメリカ人、女性、ゲイ・レズビアンなどとしてアメリカを構成する個々の局面にそくして語られるようになった。
その個々の局面を知ることによって、アメリカの多様性とともに、その多様性によって存立するアメリカというものの全体像に迫ることを目標とする。

［講義計画］

教科書にそって、ビデオを見ながら、アメリカ文化の個々の局面を順次解説講義する。

［成績評価の方法］

出席を重視する。レポート。

［参考文献］

授業中に指示する。

［教科書］

『映像文学に見るアメリカ』（マラマッド協会編）紀伊国屋書店

＜社会福祉学科生対象外＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
世界の文化Ⅳ （キリスト教音楽の変遷Ⅰ）		前　期	２単位	堀江光一

［講義概要・学習目標］

ミサ曲、クリスマス・カロルなど、キリスト教に音楽は欠かせません。
この講義では、聖書の時代から今日までの、聖歌・賛美歌の歴史を辿っていきます。
「ことば(WORDS)」と「ふし(TUNE)」が結び付いて生まれる、すてきな音の世界に、耳を傾けませんか？

［講義計画］

時代背景や音楽の仕組みを紹介しながら、いろいろな曲を聴きます。
音源は録音物が主ですが、週によってはチャペルのパイプオルガンも使います。
（この時間では毎回音楽を「聴く」ので、私語を我慢できない人には向いていません。）

［成績評価の方法］

期末テストと出席状況

［参考文献］

必要に応じて紹介します。

［教科書］

<社会福祉学科生対象外>

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
世界の文化Ⅳ （キリスト教音楽の変遷Ⅱ）		後期	2単位	堀江光一

［講義概要・学習目標］

キリスト教音楽は「西洋式音楽」の一方の親でもあります。
この講義では、ドレミやハ長調の成り立ち、バロックからロックに至る様式の変遷など、「西洋式音楽」が育てられた歴史を辿ります。すてきな音の世界に、耳を傾けませんか？
（前期と併せての履修を勧めます。）

［講義計画］

時代背景や音楽の仕組みを紹介しながら、いろいろな曲を聴きます。
音源は録音物が主ですが、週によってはチャペルのパイプオルガンも使います。
（この時間では毎回音楽を「聴く」ので、私語を我慢できない人には向いていません。）

［成績評価の方法］

期末テストと出席状況

［参考文献］

必要に応じて紹介します。

［教科書］

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
歴史と社会Ⅰ （日本文化論の功罪）		後期	2単位	深澤徹

［講義概要・学習目標］

書店に行くと、「日本文化」について書かれた書物を数多く眼にすることが出来る。また、桃山学院大学に限らず、日本全国の大学のカリキュラムの中にも、「日本文化」に関する科目が数多く見られる。これら「日本文化」についての様々な論述行為が持つ、ナショナルなイデオロギーとしての意味について考える。

［講義計画］

受講者には、詳細なシラバスを、講義の初めに配布する。

［成績評価の方法］

受講者数にもよるが、原則として毎回出席を採るので、その出席状況と年度末のペーパーテストの結果で総合評価する。

［参考文献］

佐伯彰一・芳賀徹編『外国人による日本論の名著』（中公新書・１９８７）
奥井智之『日本問題』（中公新書・１９９４）
青木保『「日本文化論」の変容』（中央公論・１９９０）

［教科書］

特に定めない。

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
歴史と社会Ⅰ（幕末京大坂歴史の旅その１）		前　期	２単位	松　浦　玲

［講義概要・学習目標］

大坂（大阪）と京都を明治維新の舞台という観点で、政治の流れによって適宜区分しながら詳細に解明していく。地域を切取りながら講義をするけれども、地理ではなくて歴史、とりわけ政治史である。前記は〈その１〉で、その中が更に幾つかの話に分れる。教科書指定はしないが月刊誌『一冊の本』で講義サブタイトルと同名のエッセイを連載中なので並行して読めば理解が進む。

［講義計画］

幕府の第２次長州征伐の基地となった大坂、大坂城で１４代将軍家茂が病死し徳川慶喜が１５代将軍となったあたりから始まり、京都での大政奉還や王政復古クーデタ、大坂から京都へ向けて大軍が出動した鳥羽・伏見の戦争と話が展開する。

［成績評価の方法］

受講者が多ければ試験、少なければレポート。

［教科書］

使わない。

［参考文献］

講義の進行に従って挙げていく。

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
歴史と社会Ⅰ（幕末京大坂歴史の旅その２）		後　期	２単位	松　浦　玲

［講義概要・学習目標］

手法は〈その１〉と同じだが、時期が進み、独立の話を積上げていくので、後記の〈その２〉だけを取ることも可能。話に重複は無く別の単位とするので、前期・後記と続けて取ることを歓迎する。〈その１〉で書いた連載も継続する。

［講義計画］

京都に成立した王政復古政権と、大坂城に退いたけれども外交的には日本国元首でありつづけた最後の将軍徳川慶喜。この抗争がどう決着するか、その舞台であった京都や大坂（大阪）は近代にどのように入っていくのか、地理的条件を重視しながら政治史的に解明する。

［成績評価の方法］

受講者が多ければ試験、少なければレポート。

［教科書］

使わない。

［参考文献］

講義の進行に従って挙げていく。

＜社会福祉学科生対象外＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
歴史と社会Ⅰ（ヨーロッパ史の諸問題Ⅰ）		前　期	２単位	山　田　義　顕

［講義概要・学習目標］

中世および近代のヨーロッパの歴史と社会について、いくつかのテーマを設定して講義する。

［講義計画］

主なテーマ
①ヨーロッパとは何か
②ヨーロッパの歴史地理
③ヨーロッパ史の時代区分
④中世ヨーロッパと黒死病
⑤ヨーロッパ史のなかの魔女
⑥ヨーロッパの膨脹
⑦風刺漫画でみるヨーロッパ社会

［成績評価の方法］

出席・学期末試験などにより総合的に評価する。

［参考文献］

必要に応じて、講義中に紹介する。

［教科書］

なし。

＜社会福祉学科生対象外＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
歴史と社会Ⅰ（ヨーロッパ史の諸問題Ⅱ）		後　期	２単位	山　田　義　顕

［講義概要・学習目標］

現代ヨーロッパの歴史と社会について、いくつかのテーマを設定して講義する。

［講義計画］

主なテーマ
①現代史の幕開け
②第一次世界大戦とヨーロッパ
③戦後ヨーロッパの社会
④ファシズムの登場
⑤ヒトラーとドイツ
⑥ヒトラーとユダヤ人問題
⑦第二次世界大戦の勃発

［成績評価の方法］

出席・学期末試験などにより総合的に評価する。

［参考文献］

必要に応じて、講義中に紹介する。

［教科書］

なし。

<社会福祉学科生対象外>

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
歴史と社会Ⅰ（朝鮮の歴史認識）	０１ ０２	前期 後期	２単位 ２単位	徳成外志子

［講義概要・学習目標］

朝鮮の民族や民族文化は、現在のような形で古代から存在し連綿と続いてきたのではない。様々な曲折を経て民族も文化も変化してきた。それに連れて民族の自己認識、歴史認識も変化してきた。歴史叙述にはその時代の民族の自己認識や問題意識が投影されているのである。その時の問題意識によって「過去」は「発見」され変わってきた。そして「過去」は今も変わり続けている。

韓国・朝鮮は現在も非常に民族意識が強いと言うことは、常日頃よく感じるところであろう。それは一つには、朝鮮半島は古来より中国・北方諸民族の圧迫と抗争の中で民族を形成・維持し、近代に入っては列強の角逐と日本の植民地化という大きな試練を経る中で形成されてきたという事情があり、また一つには、現在も南北に分断されていて、統一民族国家が未だ達成されていないという不充足感に起因しているとも言える。そのような歴史的・現実的背景から民族の「主体性の確立」や「民族統一」ということが常に問題となり強調されてきて、それが歴史認識にも投影されている。

本講義では、朝鮮における民族や民族的一体感の形成に伴い、どのように歴史認識も変化し体系化されてきたのかを、朝鮮の中世から近・現代史学に見られる、民族意識に基づく民族史の把握と体系化に焦点を当ててみていきたい。その中で朝鮮の歴史の概略と特色も理解する。

［講義計画］

1．高麗時代の歴史認識
　ー『三国史記』と『三国遺事』に見る歴史認識
2．李氏朝鮮王朝前期の官学的、性理学（朱子学）的な民族史の体系化
3．李氏朝鮮王朝後期実学者の歴史認識
　ー小中華論と北学論
　　正統論
　　渤海認識等
4．近代民族史学者の歴史認識
　ー申采浩
　　朴殷植
　　崔南善等
5．解放後、南北分断国家における歴史認識
　ー韓国
　　北朝鮮

［成績評価の方法］

学期末レポート、及び平常の出席と課題への取り組みを総合的に評価する。

［教科書］

［参考文献］

・李元淳他著、徳成外志子他訳『名著で見る朝鮮文化史』新東洋出版社、１９９２。
・李佑成著、鶴園裕他訳『韓国の歴史像』平凡社、１９８７。
・中村栄孝『朝鮮ー歴史・民族・風土』吉川弘文館、１９５１。
・梶村秀樹『朝鮮史の枠組と思想』研文出版、１９８２。
・姜萬吉著、宮嶋博史訳『分断時代の歴史認識』学生社、１９８４。
・姜萬吉著、小川晴久訳『韓国近代史』高麗書林、１９８６。
・朝鮮史研究会編『新版朝鮮の歴史』三省堂、１９９５。
・武田幸男・宮嶋博史・馬淵貞利著『地域からの世界史』朝日新聞社、１９９３。
・『朝鮮を知る事典』平凡社、１９８６。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
歴史と社会Ⅰ （「宮廷」の歴史）		後期	２単位	深澤　徹

［講義概要・学習目標］

９世紀から１２世紀にかけての、いわゆる平安時代といわれる時期の「宮廷」の歴史について論ずる。当時の日本の文化や政治や経済の中心として、「宮廷」があった。その「宮廷」は、どのようにして生まれ、また衰退し、滅んでいったのか。その過程を跡付ながら、当時の人々の価値観や世界観についても考えて行きたい。

［講義計画］

本講義は、本年度から始めるものであり、具体的な計画はまだ立っていない。実際に講義を行うなかで、試行錯誤を繰り返すこととなろう。講義半ばには、大体のめどがついてくるので、その際には詳細なシラバスを配布する予定でいる。

［成績評価の方法］

受講生の数にもよるが、原則として毎回出席を採るので、その出席状況と、年度末のペーパーテストの結果により、総合評価する。

［教科書］

保立道久『平安王朝』（岩波新書・１９６６）

［参考文献］

深澤徹『中世神話の練丹術』（人文書院・１９９４）

<社会福祉学科生対象外>

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
歴史と社会Ⅱ （男と女の出会いと別れ）		前期	2単位	生瀬克己

[講義概要・学習目標]

人類の歴史が始まっていらい、男女はずっと愛しつづけてきたにちがいないのだが、その「愛」のかたちは、それぞれの時代で非常にちがっている。人間が歩んできた歴史のなかで、それぞれの時代の「男」と「女」は、たがいのことをどのようにみつめならら、「愛し」たり、「別れ」たりしていったのだろうか。

そうした時代による「愛のちがい」をふりかえることが、この講義のテーマである。それぞれの人間が、ひとつの時代とどのようにかかわり、あるいは、かかわりえたのかというようなことが、その時代の男女の「愛」や「恋」を主題とするがゆえに、より鮮明に見えてくるはずである。

したがって、ひとつの「時代」と「個人」の関係・あり方について考えてもらうことがこの講義の目標である。

[講義計画]

1 はじめに――男女の「愛」や「恋」の形は時代によって異なる
2 神話時代の恋人たち
3 封建制下の「男」と「女」
4 江戸時代に「密通」に走った男女
5 近代の「愛」とセクシュアリティ
6 高度成長期の愛と結婚
7 コミックのなかの恋
8 おわりに――われわれに「何」が見えたのか

[成績評価の方法]

学期末に実施する「論述式筆記試験（６０％）」と、講義期間中に数回は実施する予定の「レポート（４０％）」の合計点で評価する。

[参考文献]

そのときどきに指示します。

[教科書]

とくには指定しません。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
歴史と社会Ⅱ （海域アジアの歴史を読む）	０１ ０２	前期 後期	２単位 ２単位	深見純生

[講義概要・学習目標]

この講義は「海域アジア社会」というものを考えながら歴史資料も読もうとする、ちょっと欲張った試みである。具体的には海のシルクロードに関わる歴史資料を読みながら、その様々な背景を考える。「陸域」中心史観によるシルクロード史でなく、「海域社会」という観点からアジアの地域間交易の歴史を見直す試みである。「陸域」中心の常識的な観念から自由になることによって、重要な事柄がいくつか見えてくるはずである。

海のシルクロードの歴史を東南アジアを中心に見ていくことになる。海域社会の典型的な姿は東南アジアに見ることができる。地球上で唯一の「島の熱帯」の森と海が国際交易つまり海のシルクロードと結びついたからである。

史料はできるだけ日本語訳されたものをプリントで用意し、解説を加える。史料の選択は、海のシルクロードの歴史および海域東南アジア社会の理解のふたつを基準とする。理解を助けるためにビデオをいくつか利用する。

[講義計画]

1．海域アジア世界と「島の熱帯」
　海域アジア世界／東南アジア＝「島の熱帯」／モンスーン
2．海域アジア世界の成立
　法顕＝最初のモンスーン航海の記録？
3．交易帝国の成立
　シュリーヴィジャヤ
4．マラッカ海峡の繁栄と外部勢力の進出
　ジャワ／チョーラ（南インド）／中国人海商／イスラム商人
5．「交易の時代」から「大航海時代」へ
6．付　海域アジア世界のなかの日本

[成績評価の方法]

時々の小レポートと期末試験を総合して評価する。

[参考文献]

京都大学東南アジア研究センター編『事典東南アジア　風土・生態・環境』弘文堂　1997　〔桃図R292.3〕
家島彦一『海が創る文明』朝日新聞社　1993　〔桃図A225.9〕
長沢和俊『海のシルクロード史：四千年の東西交易』中公新書　1989　〔桃図A209〕
藤本勝次他『海のシルクロード』大阪書籍　1982　〔桃図A209〕
その他教室で時々に指示する。

[教科書]

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
歴史と社会Ⅲ （スウェーデンの社会と経済）	01 02	前期 後期	2単位 2単位	伊藤正純

［講義概要・学習目標］

この講義の狙いは、民主的で平等な福祉国家として有名なスウェーデン社会の特徴をできるだけたくさん紹介し、皆さんに現在の日本の社会を検討するときの比較の鏡を提供することである。私は、政治、福祉、女性、労資関係、教育、国際化（特に移民政策）というテーマにそって、スウェーデン社会の特徴を紹介するつもりである（ビデオも使用）。

スウェーデンでは、民主的な合意形成をめざす政治が機能している。民主主義的政治の出発点は選挙制度にある。スウェーデンの二重の比例代表制は世界でも第一級の公正な選挙制度である。スウェーデンの福祉は、女性の社会進出とともに整備されていった。女性問題は実は男性を含めた家族の問題であり、企業の問題である。スウェーデンの労資関係は、経営者団体と労働組合との階級的・階層的対抗関係を前提とした上での、労資間の協調体制にその特徴がある。この労資協調体制がスウェーデンに高い経済成長をもたらし、福祉国家建設を支えた。しかし、１９８０年代以降の国際化の進展のなかで、この協調関係も徐々に崩れている。スウェーデンの教育の特徴は、学校教育においても成人教育においても、職業教育（労働力の育成）が重視されている点にある。
最後に国際化であるが、ＥＵ加盟や企業の海外進出という外向きの国際化だけでなく、移民受け入れという内向きの国際化もスウェーデンの特徴である。

［講義計画］

1. 平等で公正な選挙制度、地方政治
2. 充実した福祉政策
3. 女性の社会進出、男女平等
4. 対立的な労資関係から平和的な労資関係へ、国際化のなかでの労資関係の変化
5. 教育大国、生涯学習の国
6. 寛容だった移民受け入れ政策、しかし変化も。

［成績評価の方法］

平常点（授業中にときどき書いてもらう感想文：３０点）と学期末の筆記試験（７０点）による。

［教科書］

なし

［参考文献］

1. 平田清明・伊藤正純他『現代市民社会と企業国家』御茶の水書房
2. 黒沢惟昭・佐久間孝正編『苦悩する先進国の生涯学習』社会評論社
3. 岡沢憲芙・奥島孝康編『スウェーデンの政治』早稲田大学出版部
4. 岡沢憲芙・奥島孝康編『スウェーデンの経済』早稲田大学出版部
5. 岡沢憲芙・奥島孝康編『スウェーデンの社会』早稲田大学出版部
6. 岡沢憲芙『スウェーデンの挑戦』岩波新書

＜社会福祉学科生対象外＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
歴史と社会Ⅲ （議会制の比較政治学的考察）		前　期	2単位	山崎充彦

［講義概要・学習目標］

現代民主主義にとって、議会制はいわば不可欠な制度である。現代のような大衆化・複雑化・専門分化した社会において、直接民主制を実現することは困難であり、たとえ問題を孕もうとも議会制を否定することはできない。直接民主制の一つの手段である住民投票は、あくまで議会を補完する制度と位置づけられるに過ぎない。

しかしながら、議会制は常に、批判にさらされてきた。曰く、議会は非効率である、議会は民主制の皮をかぶりながらも国民の声を反映していない、と。

我が国の国会の現状も到底、国民にとって満足すべき状況ではない。審議の形式化、閣取引の横行など、国会の現状が「国権の最高機関」の名にふさわしいとは言えない一面があることも事実であろう。だが、国会が形骸化した機関だと言い切ることもできない。

この講義では、国会の役割と現実、議会の果たす機能について、諸外国の議会と比較しつつ考察する。

なお、昨年度の歴史と社会Ⅲ（自由・民主主義の史的考察）とは一部で重複するものの、基本的には内容を変える。

［講義計画］

1、議会制の意義と権能
2、20世紀における議会制批判
　～カール・シュミットの議会批判
3、我が国の国会の現状
　～自民党一党優位体制下の国会
4、国会議員の構造変化
　～官僚出身議員の官歴の変化
5、諸外国との比較
　～日本の国会は特異なのか

［成績評価の方法］

前期末試験のみによって行う。

［教科書］

使用しない。

［参考文献］

授業中に指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
歴史と社会Ⅳ （アイヌ民族：歴史と社会Ⅰ）		前　期	2単位	片　倉　穰

［講義概要・学習目標］

日本における「先住民族」・アイヌ民族の歴史と社会を概観し、いくつかの問題点を提起する。前近代では、アイヌ民族固有の文献史料がほとんどないので、近隣地域の史料を多面的に活用しつつ、この民族の主体的な歴史の歩みを考察する。日本の同化政策とそれへの抵抗運動も重視する。前期は、紀元前後から15世紀頃までの時期を取り扱う。

本講義の第一の目標は、日本単一民族国家論を再考する素材を提供することにあり、第二の目標は、先住民族や少数民族固有の権利が論議されている国際的環境のなかで、受講生の皆さんが同じ国家の構成員となっているアイヌ民族の歴史・社会と文化を理解し、歴史的存在としての自らを、改めて考える機会を提供することにある。

［講義計画］

（前期）（1）はじめに ― 日本のなかのアイヌ民族（その現状と問題点）
（2）古代日本のなかの「蝦夷（エミシ）」
（3）アイヌ民族の文化形成
（4）中世日本のなかの「夷島（アイヌモシリ）」
（5）「和人」政権（安藤氏）の貿易活動
（6）コシャマインのたたかい ― 最初の民族戦争の史的意義
（7）モンゴルの襲来とアイヌの抵抗

［成績評価の方法］

講義中に実施される小テスト（レポート）および期末試験等により評価する。

［教科書］

とくにない。

［参考文献］

田中　了、D，ゲンダーヌ共著『ゲンダーヌ ― ある地方少数民族のドラマ』（現代史研究会、1978）
知里幸恵編訳『アイヌ神謡集』〈岩波文庫〉（岩波書店、1978）
荒野泰典・石井正敏・村井章介編『アジアのなかの日本史　Ⅳ　地域と民族』（東京大学出版会、1992）
菊池勇夫『アイヌ民族と日本人』〈朝日選書〉（朝日新聞社、1994）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
歴史と社会Ⅳ （アイヌ民族：歴史と社会Ⅱ）		後　期	2単位	片　倉　穰

［講義概要・学習目標］

日本における「先住民族」・アイヌ民族の歴史と社会を概観し、いくつかの問題点を提起する。前近代では、アイヌ民族固有の文献史料がほとんどないので、近隣地域の史料を多面的に活用しつつ、この民族の主体的な歴史の歩みを考察する。日本の同化政策とそれへの抵抗運動も重視する。後期は、16世紀頃から現代までの時期を取り扱う。

本講義の第一の目標は、日本単一民族国家論を再考する素材を提供することにあり、第二の目標は、先住民族や少数民族固有の権利が論議されている国際的環境のなかで、受講生の皆さんが同じ国家の構成員となっているアイヌ民族の歴史・社会と文化を理解し、歴史的存在としての自らを、改めて考える機会を提供することにある。

［講義計画］

（後期）（1）幕藩制国家のなかのアイヌ民族 ― 四つの窓口の一
（2）松前藩の「蝦夷地」政策とアイヌ民族
（3）「蝦夷地」から「北海道」へ ― 近代日本の領域化
（4）同化政策のなかのアイヌ民族
（5）日本の南北問題 ― アイヌと沖縄
（6）いわゆるアイヌ新法をめぐって
（7）まとめ

［成績評価の方法］

講義中に実施される小テスト（レポート）および期末試験等により評価する。

［教科書］

とくにない。

［参考文献］

田中　了・D，ゲンダーヌ共著『ゲンダーヌ ― ある地方少数民族のドラマ』（現代史研究会、1978）
知里幸恵編訳『アイヌ神謡集』〈岩波文庫〉（岩波書店、1978）
荒野泰典・石井正敏・村井章介編『アジアのなかの日本史　Ⅳ　地域と民族』（東京大学出版会、1992）
菊池勇夫『アイヌ民族と日本人』〈朝日選書〉（朝日新聞社、1994）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
歴史と社会Ⅳ （変わる社会・孤立化する個人）		９月集中	２単位	土　屋　正　春

［講義概要・学習目標］

「我々はどこから来たのか、そしてどこに行くのか」という言葉はタヒチに没した画家ゴーギャンの言葉として皆さんもご存知でしょう。この言葉は、現代文明に対する根本的な問いかけでもあるのですが、実はもう一つの言葉が、この二つの言葉の間にはあるのです。

環境問題が深刻化する一方で多様な文化の担い手である「ひと」は次第に生命活動の「ＤＮＡ総合体」として認識されることが多くなりつつあります。 安楽死や尊厳死をめぐる問題はそうした場面が別の現れ方をしていると言えるでしょう。

このクラスでは環境と生命とをめぐる現代的な考え方についての概観を得ることを目標とします。 ところで、間に入る言葉とは何でしょう。

［講義計画］

1．何が問題となっているのか
　アザラシはなぜ大量死したのか
　生きる価値がないとなぜ人は考えるのか

2．問題はどのように受け止められているのか
　ＣＯＰ３の議論はどのように組み立てられたのか
　尊厳死と安楽死はどのように選択されているのか

3．現代社会での個人のあり方をめぐって
　環境最優先という考え方について
　生命最優先という考え方について

［成績評価の方法］

講義を通じてお知らせします

［参考文献］

講義を通じてお知らせします

［教科書］

使用しません

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
思想と宗教Ⅰ（現代文化の中のキリスト教）	０１ ０２	前　期 後　期	２単位 ２単位	伊　藤　高　章

［講義概要・学習目標］

現代文化の諸側面とキリスト教がどのように関わっているのか、諸問題にキリスト教はどのような切り口から関わっていこうとしているのか、を様々な角度から検討する。
文献の講読、ヴィデオその他のメディアによる紹介などをとおして、現代のキリスト教の理念を学ぶとともに、その具体的な実践について見聞を広げる。

［講義計画］

以下の内容を含む
　現代社会文化における人間
　キリスト教の創造論・救済論
　「解放の神学」の視点
　現代社会におけるキリスト教の働き

［成績評価の方法］

ブック・レポートの提出、授業における「紹介」への応答の提出を頻繁に行う。それらの平常点によって評価する。提出物は原則として E-mail 経由とする予定なので、留意すること。

［参考文献］

『聖書 新共同訳』、日本聖書協会 （旧約・新約）

［教科書］

ドロテー・ゼレ（著）『働くこと愛すること － 創造の神学』、日本基督教教団出版局 1988

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
思想と宗教Ⅰ (新約聖書を読む)	０１ ０２	前　期 後　期	２単位 ２単位	滝　澤　武　人

［講義概要・学習目標］

新約聖書には２７巻のさまざまな文書が含まれており、それらは人類全体の大いなる知的遺産であり、今日においてもなお文学・歴史・思想・宗教など人間の根本問題に対して新鮮な光を投げかけている。その「新約聖書」（特に福音書）を読み、イエスという人間の歴史的な姿を明らかにすることが今年度の講義の目標である。そのためには２００年にわたる福音書の学問的な研究成果を土台として、どれがほんとうのイエスの言葉なのか、どのような歴史的状況の中で（誰に対して、何のために）言われた言葉なのかを慎重に判断しなければならない。

イエスの生きざまは、キリスト教の枠を越えて、今日でも世界中の多くの人々に大きな感動を与えるはずである。特に教育・社会福祉・医療・人権・ボランティアなどの問題に関心を抱く諸君の真面目で主体的な受講を期待している。なお教科書として指定した『新約聖書』と『人間イエス』は必ず毎時間持参すること。

［講義計画］

滝澤武人『人間イエス』（講談社現代新書）にしたがって講義する。

序章　イエスをもとめて
１章　おいたち
２章　被差別民衆
３章　ヒーリング（癒し）
４章　どんな男？
５章　どう生きる？
６章　教会は？
７章　終末
８章　死
終章　復活

［成績評価の方法］

試験、レポート、感想文、受講姿勢などを総合的に評価する。

［教科書］

新共同訳『新約聖書』詩編なし（日本聖書協会）
滝澤武人『人間イエス』（講談社現代新書）

［参考文献］

田川建三『イエスという男』（三一書房）
荒井　献『イエスとその時代』（岩波新書）
八木誠一『イエス』（清水書院）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
思想と宗教Ⅲ （仏教経典を読む）	０１ ０２	前　期 後　期	２単位 ２単位	武　田　耕　道

［講義概要・学習目標］

西暦４００年前後、西域のコータン地方に、一群の大乗仏教の信者たちが教団をつくっていた。彼らは、熱心に釈尊を慕い、釈尊の悟りをどうにかして自分のものとしようと努力していた。この「悟りの追体験派」と呼ぶべき人々が大宇宙を舞台に悟りの世界とそこに到達すべき道を明らかにするという構想のもとに、複数の経典を収集・選択し、さらに新しく何章かを追加して、全体を雄大な宗教歌劇の台本のような形に体系づけて、一経典の形に歌い上げた。これが『華厳経』と呼ばれる大乗経典であると考えられる。

人間存在の現実の姿と理想の形を、仏教経典から探究したい。仏教経典は多種多様であるが、本年度は華厳経を中心にして、釈尊の思想と宗教を読み解きたい。

［講義計画］

１．大乗経典
２．華厳経
３．教相判釈
４．発心と修行
５．菩提と涅槃
６．善財童子の求道物語

［成績評価の方法］
期末試験と出席状況

［教科書］
特に指定せず

［参考文献］
鎌田茂雄（著）『華厳の思想』（講談社）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
思想と宗教Ⅲ （ピュタゴラス伝承と西欧科学）	０１ ０２	前　期 後　期	２単位 ２単位	山　川　偉　也

［講義概要・学習目標］

ピュタゴラスの謎―伝承と思想

「ピュタゴラスとは何者か？」と問われると、たいていの人は、「三平方の定理（ピュタゴラスの定理）を発見した数学者」と答える。困ったことだ。というのも、その歴史的な根拠は確かでないからである。では、ピュタゴラスは何者であったのか。彼はほんとうに実在したのか。この基本的な問いに答えていくなかで、ピュタゴラスを取り巻く神秘のヴェールを一枚ずつはがしていくことをやってみる。その作業は、西欧思想の根幹部に迫るものとなるはずである。

［講義計画］

以下の順序で講義する予定である。

（１）ピュタゴラスとは何者か
（２）ピュタゴラス伝承（１）
（３）ピュタゴラス伝承（２）
（４）ピュタゴラス伝承（３）
（５）ピュタゴラス学派の対抗者エレアのゼノン（１）
（６）ピュタゴラス学派の対抗者エレアのゼノン（２）
（７）ギリシア演繹数学の起源（１）
（８）ギリシア演繹数学の起源（２）
（９）西欧科学思想におけるピュタゴラス（１）
（１０）西欧科学思想におけるピュタゴラス（２）
（１１）結論
（１２）試験（授業期間中に実施する）

［成績評価の方法］

講義への参加態度、小テスト、期末試験の成績を総合して評価する。

［教科書］

山川偉也『古代ギリシアの思想』講談社学術文庫
山川偉也『ゼノン 四つの逆理』講談社

［参考文献］

参考文献として必要となるものについては、授業中に、そのつど指示することにする。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
思想と宗教Ⅲ （ドイツ社会・国家の思想史）		前　期	２単位	坂　昌　樹

［講義概要・学習目標］

我々の現在を規定しているものに、西欧から導入した政治原理と経済秩序の考え方がある。簡単にいえば国家は政治体制として、社会は経済活動の場として別個に想定できるが、現在では社会福祉体制が、むしろ政治と経済の相互補完関係を実現しており、その典型のひとつを現代ドイツの「社会国家」に認めることができる。

この講義では、ドイツ「社会国家」の成立史に関連して、社会と国家の問題を考えていきたい。双方とも時代や考え方によって規定の異なる概念であるから、講義では思想史や概念史に言及することになる。近世や近代については社会や国家にかんする諸思想を示して、現代の我々が持つ政治的・社会的諸概念の相対化を試み、現代についてはむしろ具体的な事例を紹介して（できればビデオ教材を利用しつつ）我々の今後の状況を一緒に考えてみたい。

［講義計画］

１．導入：ドイツ「社会国家」の体験、「社会」と「国家」のことばの歴史
２．１６世紀まで：身分制社会と社団国家、国家理性論、暴君放伐論、国家主権論
３．１７世紀：絶対主義、ウェストファーリア体制下の帝国と領邦
４．１８世紀：制度的領域国家、後見的ポリツァイ国家、支配契約論と社会契約論
５．１９世紀：市民社会と国民（民族）国家、階級社会と社会福祉国家
６．２０世紀：全体主義、多文化社会と移民国家
７．まとめ

［成績評価の方法］

学期末の筆記試験を中心に、講義中の質疑応答への参加とあわせて評価する（講義の出席はとらない）。

［教科書］

教科書は指定しない。

［参考文献］

G.A. リッター、木谷勤他訳、『社会国家』、晃洋書房、1993年。
A. ヴィンセント、『国家の諸理論』、昭和堂、1991年。
M. リーデル、河上倫逸他訳、『市民社会の概念史』、以文社、1990年。
O. ブルンナー、石井紫郎他訳、『ヨーロッパーその歴史と精神』、岩波書店、1974年。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
思想と宗教Ⅲ （安藤昌益と思想）	01 02	前　期 後　期	2単位 2単位	三　宅　正　彦

[講義概要・学習目標]

思想の特性は長らく時代の変化を基準として論じられてきたが、地域の差異を問題にしなければ、正確な理解を行うことはできない。また、言語や民俗の問題を抜きにしては、思想の本質に迫ることはできない。この講義では江戸時代中期の東北地方出身の農民思想家・安藤昌益を例として上記の課題を追究する。

[講義計画]

(1) 安藤昌益に関する事実の掘り起こし
(2) 昌益の著書
(3) 思想と地域性
(4) 言語と思想
(5) 文献と民俗
(6) 昌益の思想と東北の風土
(7) 昌益の思想の特性

[成績評価の方法]

期末試験

[教科書]

コピーを授業時に配布する

[参考文献]

三宅正彦『安藤昌益と地域文化の伝統』（雄山閣，1996年）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
思想と宗教Ⅲ （境界と祭祀Ⅰ）		前　期	2単位	井　本　英　一

[講義概要・学習目標]

ユーラシアで通文化的に見られる表象の一つに境界がある。境界は、場として、時間として、意識として人間に大きな規制を加える一方、認識の枠を形成してきた。境界は障害として忌避される一方で崇拝の対象となった。そこは死者を祭る場所であり礼拝の場所であった。

[講義計画]

境界考，門に関する話，鳥居の前史，シルクロードを伝わった始原の家，弥勒のルーツを探る，手形考，莫高窟第十七窟について，仏頭の釘，買地券考，東大寺二月堂とお水取りの由来，新年とよみがえり，鶏　かつて果たした役割り，イラン渡来縁起，風神考 ―ユーラシアの神話から，中国のミイラにみる葬法。

[成績評価の方法]

期末の筆記試験の得点によって評価する。

[教科書]

井本英一『境界・祭祀空間』平河出版社

[参考文献]

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
思想と宗教Ⅲ （境界と祭祀Ⅱ）		後　期	2単位	井　本　英　一

［講義概要・学習目標］

ユーラシアで通文化的に見られる表象の一つに境界がある。境界は、場として、時間として、意識として人間に大きな規制を加える一方、認識の枠を形成してきた。境界は障害として忌避される一方で崇拝の対象となった。そこは死者を祭る場所であり礼拝の場所であった。

［講義計画］

前期につづく。

［成績評価の方法］

期末の筆記試験の得点によって評価する。

［教科書］

井本英一『境界・祭祀空間』平河出版社

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
思想と宗教Ⅲ （習俗と宗教Ⅰ）		前　期	2単位	井　本　英　一

［講義概要・学習目標］

古今東西の諸民族の間で展開された多彩な習俗を比較民俗誌の手法で対照し、その個別性と普遍性を考察する。さらに祭りと信仰の基本構造を説き、文化の始原の姿を浮彫りにする。

［講義計画］

初物の話、大地のへそ、習俗の始原、あべこべの世界、木の枝と再生、死者を打つ話、巡礼路の起源をたずねて、沈黙交易、変身の文化、　獣皮を被る人、ユーラシアの変身・変化思想、蛇の伝承と女性、世界楽園マンダラ、聖なる盃、ピラミッドと聖域、前方後円墳とピラミッド、羊の話。

［成績評価の方法］

期末の筆記試験の得点によって評価する。

［教科書］

井本英一『習俗の始原をたずねて』法政大学出版局

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
思想と宗教Ⅲ （習俗と宗教Ⅱ）		後　期	2単位	井　本　英　一

［講義概要・学習目標］

古今東西の諸民族の間で展開された多彩な習俗を比較民俗誌の手法で対照し、その個別性と普遍性を考察する。さらに祭りと信仰の基本構造を説き、文化の始原の姿を浮彫りにする。

［講義計画］

前期につづく。

［成績評価の方法］

期末の筆記試験の得点によって評価する。

［参考文献］

［教科書］

井本英一『習俗の始原をたずねて』法政大学出版会

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
思想と宗教Ⅳ （探しものは何ですか）	01 02	前　期 後　期	2単位 2単位	倉　本　香

［講義概要・学習目標］

「なぜ自分だけが不幸なのか？」と疑問を感じてしまうとき、あるいは「私はだれ？」という問いにとり憑かれてしまったとき、現代の宗教は私たちにどのような世界解釈を提供してくれるのだろうか。さらに言えば、そのような問いを発する私たち自身は、今、どのような状況に投げ出されて生きているのだろうか。一体、自分の人生を生きているという確かな実感をどこに探ればいいのだろうか？

この授業では、これらの素朴で、かつ深遠な問いを常に受講生の皆さんに投げかけることを通して、皆さん自身にこれらの問いかけに対する解答を探し出してもらいたいと思います。従ってこの授業の重点は、学問的な知識の提供にではなく、「自ら考える」という点にあります。考えることに挑んでみましょう。あなたの探しものは何ですか？

［講義計画］

1．現代社会と宗教
2．新新宗教について
3．私が私であるために
4．このままじゃ生きジゴク
5．虚構と現実の間で
6．キリスト教の起源（ニーチェの思想）

［成績評価の方法］

レポート、自己評価

［参考文献］

［教科書］

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
思想と宗教Ⅳ （古代インドの自由思想Ⅰ）	01 02	前　期 後　期	2単位 2単位	杉　岡　信　行

［講義概要・学習目標］

古代インドの思想・宗教は、祭祀主義のバラモン教が主流であった。ところが、紀元前5、6世紀に北部インドを中心に祭祀主義に異を唱える自由思想家たちが多数輩出した。バラモン教徒たちは、世俗の中にあって、世俗生活を肯定していた。一方、自由思想家たちは、超俗を尊び、出家主義を宗としていた。自由思想家の中でも仏教の開祖であるゴータマ・ブッダとジャイナ教の祖師マハーヴィーラは最も有名である。授業では自由思想家たちの思想と宗教活動について見ていく。また、古代インドの宗教を考えるとともに、現代における宗教の意味と意義について考えていきたい。

［講義計画］

ジャイナ教の輪廻思想と業思想について、わかりやすく解説したい。

［成績評価の方法］

期末試験により評価する。

［参考文献］

『インド思想史』ゴンダ, J著（鎧　淳　訳）中公文庫

［教科書］

『宗教と救済』　山口恵照　等編　ナカニシヤ出版

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
科学と技術Ⅰ （現代の宇宙論）	01 02	前　期 後　期	2単位 2単位	桑　原　雅　子

［講義概要・学習目標］

現代の宇宙論は20世紀科学が到達した頂点のひとつである。天文学、素粒子物理学、さらに観測装置やロケットなど技術のめざましい進歩によって、われわれは宇宙の始源について正確なシナリオを描き、宇宙の構造について精緻な知見をもつにいたった。物質世界の統一的記述に一応成功しつつあるといえよう。文系の学生諸君に宇宙科学最前線のテーマをわかりやすく講述することは、担当者にとっても至難であるが、チャレンジしてみよう。

また講義をとおして、現代科学の方法、科学と技術の分かち難い関係、純粋科学の進展と国家の科学技術政策のかかわりについて考えるきっかけを提供したい。宇宙について省察することは、人間存在について思いをめぐらせることである。コスモロジーとしての人文学的要素にも言及する。

［講義計画］

1．はじめに：宇宙論小史
2．近代科学の宇宙像
3．観測と理論18－19C
4．銀河と宇宙の構造
5．膨張する宇宙
6．相対論的宇宙論
7．ビッグバン・モデル
8．重元素生成と星の一生
9．素粒子の世界
10．標準理論を超えて
11．観測的宇宙論の新展開
12．おわりに：宇宙と人間

［成績評価の方法］

期末試験による。
授業中に課する小レポートを参考にする。

［参考文献］

講義中に指示する。

［教科書］

使用しない。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
科学と技術Ⅰ （エネルギー問題の科学技術）	01 02	前期 後期	2単位 2単位	後藤邦夫

[講義概要・学習目標]

文明社会は莫大な量のエネルギーの消費の上に成り立っている。たとえば、経済活動と市民生活を支えるために日本が輸入する石油、天然ガス、石炭などの化石燃料は年間数億トンにのぼる。そのほかに、放射能などの問題を抱えた原子力発電所を多く稼働させている。エネルギーの安定供給はわれわれにとって死活問題である。このエネルギー問題の科学技術的側面として、資源の探査と採掘、輸送と貯蔵、転換と精製、配分システム、効率的利用などがあり、いずれも今日の科学技術の重要課題である。しかも、その基底には「エネルギー原理」と「エントロピー原理」という、われわれの自然認識の根幹にかかわるテーマがある。これらを出来るだけ平易に解説し、エネルギー問題の重要性と原理的問題を認識してもらうのがこの授業の目的である。

[講義計画]

以下のテーマをそれぞれ1、2回ずつ扱う。
（1）エネルギー問題理解のための基本事項。
（2）化石燃料資源の探査と採掘。
（3）化石燃料の精製、加工、転換。
（4）エネルギーの動力利用。
（5）エネルギー・システムの概念と有効利用。
（6）エネルギー科学の基礎的原理。
（7）エネルギー問題と社会科学。

[成績評価の方法]

期末のテストの結果が中心であるが、テーマを決めてレポートを課し、あわせて評価する。

[教科書]

使用しない。必要に応じプリント等を配付する。

[参考文献]

おびただしい良書がある。講義に際して配付するシラバスでその一部を挙げるが、他にテーマごとに授業中に示す。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
科学と技術Ⅱ （戦後日本の技術発達史）	01 02	前期 後期	2単位 2単位	並川宏彦

[講義概要・学習目標]

戦後50年余、この間は日本の工業にとって革新と呼ばれるほど技術が躍進した時代であった。
戦後技術の基盤は戦前におけける日本技術の蓄積にあるが、その革新は大戦中に急速に発達した欧米の産業技術を積極的に導入することによりはじまった。
昭和30年代から家庭電器、乗用車、石油化学などの新工業が急速に発達し、それがまた金属、電力、化学、機械工業など関連基礎部門の革新を促した。それは石油危機にいたるまでの高度経済成長をもたらした。昭和50年代へ入ると電子技術と機械技術の融合、メカトロニクスを中心とする技術革新へ移行する。コンピュータと自動制御技術は工場のオートメーション化をもたらし、自動車など機械製品のエレクトロニクス化が進んでいる。
この講義では、戦争による廃墟からの復興から今日の技術先進国といわれるほどになるまでの変化の過程を、経済の発展と工業技術革新の面から講ずる。

[講義計画]

最初に、技術とは何か、科学とは何かを明確にする。続いて、戦後の技術革新と経済発展について、時期区分と各時期の特徴を明確にしてその概要を述べる。この中で、石炭・石油化学工業、鉄鋼業、電力業、自動車工業、造船工業、電気・電子工業、繊維工業、化学工業など、個別工業の技術の発展過程を述べ、そして、戦後技術発達の特色および日本の技術力について講ずる。

[成績評価の方法]

レポートの提出を課す。前期末に試験をする。
試験の点数とレポートの評価で成績をつける。

[教科書]

[参考文献]

最初の授業の日に参考文献を示す。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
科学と技術Ⅲ (生命を操る技術の光と陰)	01 02	前　期 後　期	2単位 2単位	鈴　木　善　次

[講義概要・学習目標]

今日、生命を操る技術は急速な進展をとげている。生命現象の根本ともいえるDNA(遺伝物質)の組みかえ技術をはじめ、生命の誕生の瞬間でもある受精をめぐる技術(人工・体外)から生命の死を迎える瞬間にかかわる技術(臓器移植など)まで、自然の摂理に反するようなものが現実のものとなってきた。

本講義では、それらの技術を紹介し、それらがもつ問題点を学生とともに考え、人間にとって科学とは、また人間にとっての科学技術のあるべき姿を判断しうる能力を身につけてもらう。

[講義計画]

1. DNA組みかえ技術 (4コマ)
   - DNAとは　- 組みかえ技術　- 応用例
2. 細胞レベルでの生命操作(4コマ)
   - 細胞融合技術　- 人工受精(体外受精)　- 応用例
3. 器官レベルでの生命操作(4コマ)
   - 臓器移植とその問題点
4. さまざまなレベルでの生命操作技術の組みあわせ.(2コマ)
5. 科学技術の光と陰(1コマ)

[成績評価の方法]

授業の際、ときどき提出してもらう"感想文"と学期末の試験の結果を総合的に評価する。

[参考文献]

講義中、随時紹介する。

[教科書]

なし。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
科学と技術Ⅲ (地球生物の来し方・行く末)		後　期	2単位	松永俊男

[講義概要・学習目標]

あらためていうまでもなく、人間は生物進化の産物である。その人間が「地球にやさしく」などというのは、人間の思い上がりである。百億年の寿命をもつ地球から見れば、人類の活動など、ほんの一瞬のできごとにすぎない。環境破壊によって人間自体が絶滅しても、やがて地球には緑が回復し、新たに進化した動物が海にも陸にも満ちあふれることだろう。

この講義では、ビッグ・バンに始まる宇宙の歴史の中で、地球に生命体が誕生し、人間という知性体が登場した経過を探求する。さらに、地球外生命体の可能性や、人類と地球の将来などについて考察したい。

授業は、CD－ROMやVIDEOなどの映像資料を利用した楽しいものにしたいが、遅刻や私語には厳しく対応する。

最初の授業時に、毎回の講義内容を示した講義予定表を配布する。

[講義計画]

1. 地球の誕生
2. 大量絶滅の謎
3. 生命の起源と宇宙人探査
4. 最初の地球生物
5. 酸素の役割
6. 陸生生物の出現
7. 脊椎動物の進化
8. サルからヒトへ
9. 現生人類への歩み
10. 社会的機能を担った性行動
11. 利他行動の起源
12. 『ジュラシック・パーク』のうそ
13. 遺伝子工学と生殖革命
14. 地球と人類の将来

[成績評価の方法]

原則として、毎回の授業の最後に小テストを実施する。この小テストの結果を総合して評価する。ただし授業の状況によっては、期末テストを実施し、これと小テストを総合して評価する場合もある。

[参考文献]

[教科書]

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
科学と技術Ⅲ （公害と環境保全と科学技術）	０１ ０２	前　期 後　期	２単位 ２単位	井田和子

［講義概要・学習目標］

現代文明を特徴づけている科学と技術とは，いったいどのような科学・技術をさすのか。歴史の歩みのなかで科学や技術はどのような役割を果たしてきたのか。科学技術はどこへ行こうとしてしるのか。人間と人間社会の未来に対してどのようにかかわりあっているのか。これらの間に何らかの見きわめを抱き，何らかの取り組みの姿勢をもつことは，今や避けられない課題となりつつある。科学や技術が産業や経済構造だけでなく，社会や政治，さらには人間そのものにまでかかわりあいをもつものとなってきたからである。
公害問題を解決し，環境保全の立場に立った科学技術の発展が急務である。

［講義計画］

水俣病などの四大公害病は，どのようにして発生したか。
人工の有機塩素化合物(PCBやダイオキシンなど）はなぜこわいのか。
カーソンの名著「沈黙の春」に示された世界は現実のものになるのか。

地球の温暖化はすでに始まっている。どう抑えていくのか。
酸性雨による陸地環境の酸性化にどう対処するのか。
フロンによるオゾン層の破壊は，本当に，まったく予測できなかったのだろうか。

科学技術に期待出来る範囲は何処までか。

［成績評価の方法］
期間中に数回のレポートを書いてもらい，期末に実施するテストの結果の両方で評価する。

［参考文献］

その都度指示する。

［教科書］
毎回プリントを配布する。

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
科学と技術Ⅲ　（　害虫とたたかう　）	０１ ０２	前　期 後　期	２単位 ２単位	巖　　圭　介

［講義概要・学習目標］

人間は、多くの昆虫と敵対関係にある。人間に直接害を与える昆虫や病気を媒介する昆虫がいる。人間が農耕牧畜を始めたときから、その収穫物を横取りしようとする昆虫がいる。それらの害虫と、人間はどのように闘ってきたのか？その戦果は？はたして人間に勝ち目はあるのか？
昆虫の数を制御しようとする科学は、個体群生態学という生態学の一分野に属する。現在までに行われてきた様々な害虫対策の成功と失敗を紹介しながら、生物の数の増減がどのような要因によってコントロールされているのかを学んでもらいたい。

［講義計画］

おおむね次のようなテーマに沿って、実例をもとに進行する。

いろいろな害虫
なぜ害虫ははびこる
米百姓と虫の永いたたかい
殺虫剤の光と陰：進化する害虫
ラブコールを妨害せよ：フェロモンの利用
虫を放して虫を抑える
530億匹のたたかい：ウリミバエの根絶
日本侵略：セアカゴケグモ

［成績評価の方法］

期末試験による

［参考文献］

適宜授業中に示す。

［教科書］

なし

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
科学と技術Ⅲ　（ 滅びゆく生物 ）	01 02	前　期 後　期	2単位 2単位	巖　圭介

[講義概要・学習目標]

人間は、数えきれないほどの生物を絶滅に追いやっている。食料のため、金のため、あるいは単に享楽のために、多くの生物を死なせている。同時に、水を汚し空気を汚し生息地を分断することで、知らぬ間に滅んでいく生物が無数にいる。なぜ特定の生物だけがその数を減らしていくのか。生物を絶滅から救うにはどうすればよいのか。生物の多様性を維持するとはどういうことか。

地球上の生物が急速に失われていく危機感から、保全生物学というひとつの分野がごく最近誕生した。この講義では生物保全の基礎を事例をふまえながら紹介していくが、同時にこの地球に存在する多くの生命が人間にとってどのような意味を持つのかを考える機会としてもらいたい。

[講義計画]

おおむね次のようなテーマに沿って、できるだけ実例をもとに進行する。

生物が増える理由、減る理由
数が少ないと困ること
生物多様性
アフリカのチータの場合
１種だけでは生きられない
サクラソウと野ねずみ
絶滅の確率を推定する
自然な自然、人為的な自然
生態系を守るとは

[成績評価の方法]

期末試験による

[参考文献]

適宜授業中に示す。

[教科書]

なし

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
科学と技術Ⅳ （情報の数理）	01 02	前　期 後　期	2単位 2単位	井　上　勤

[講義概要・学習目標]

科学・技術の、そして社会・経済の発展の歴史において数学の果した役割は大きい。
20世紀後半からの電子計算機の急速な発展は数学そのものに多少の影響のあったことは事実である
このことをふまえて目標として つぎの2点を取り上げた

1. 集合・論理はいわば「人間思考」の数学であり、数学の基礎概念でもあり、応用面において、情報科学における情報の生成はもとより、論理回路などコンピュータ原理と密接に結びつき重要な数学である。
2. 情報理論の根本となっているエントロピーを確率論の立場より容易に理解できるよう解説する

[講義計画]

1. ブール代数（ブール代数と論理回路）
2. 情報源とマルコフ過程

[成績評価の方法]

成績評価の主資料は試験であるが、平常授業の出席状況、演習（課題）も加味する予定である。

[参考文献]

わかる数学入門
―― 集合・論理・線形代数

[教科書]

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
科学と技術Ⅳ （「情報」を科学で扱う）	01 02	前　期 後　期	2単位 2単位	後　藤　邦　夫

［講義概要・学習目標］

コンピュータの中で「情報」が処理され、通信回線や電波を通して「情報」が世界中を駆け回っている。そこでは科学や技術が巾を利かせているが、一体「情報」（あるいは知識）を「科学的に扱う」とはどういうことであろうか。たとえば、文学等で言葉を扱うのとどう違うのだろうか。歴史的な話題を取り上げながら、われわれが行ってきたことを振り返ってみる。いわば、「対話と手紙」から「インターネット」までを、出来るだけ共通のモデルによって考えてみようというのである。そのモデルは「科学」にとっては好都合のものであるが、人間が互いに言葉を交わしながら考えるという「情報処理の原点」をどのように変えたか。これから否応なしに人工的な情報処理の世界に入ってゆく学生諸君に、一度考える機会が提供できれば幸いである。授業はできるだけ具体的な問題を選んで行うが、その中で基礎的な理論の輪郭を理解してもらえるようにしたい。

［講義計画］

以下のテーマをそれぞれ1、2回ずつ扱う。
（1）言葉とコミュニケーションを扱う「ブロック図モデル」。
（2）文字情報の生成と伝達（印刷と出版のシステム）。
（3）電気通信における「符号化」の役割。
（4）「ことば」と「波」（電波による情報の大量輸送）。
（5）「言葉」と「論理」（コンピュータの着想）。
（6）情報の理論的基礎（シャノンの理論）。
（7）コンピュータにおける情報の働き。

［成績評価の方法］

期末のテストの結果が中心であるが、テーマを決めてレポートを課し、あわせて評価する。

［教科書］

使用しない。必要に応じプリント等を配付する。

［参考文献］

部分的な問題については、おびただしい良書がある。しかし、このテーマを一貫して扱った本は意外に少ない。講義に際して配付するシラバスでその一部を挙げるが、他はテーマごとに授業中に示す。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
科学と技術Ⅳ （情報とコミュニケーション）	01 02	前　期 後　期	2単位 2単位	真　庭　功

［講義概要・学習目標］

インターネットが世界をネットワーキングしている。ワールド・ワイド・ウェッブによる情報検索をはじめ、電子メールやマルチメディアの活用により電脳空間が急速に拡大し、携帯電話、カーナビゲーション、衛星放送などの衝撃も加わって、社会はデジタル革命の様相となっている。

授業では、現在の情報技術や通信技術について概説する。これらの技術が生活空間や文化創造を支援するための方法を考える。
ビデオ教材などを活用して理解を深め、双方向の論議の一助にしたい。
電子メールでの意見発表を試みる。

レポートは新鮮な目で興味をもって調べ、考えることを期待している。

［講義計画］

1）激増するマルチメディア商品群
　パソコン、CD－ROM、携帯電話、テレビなど
2）情報と通信の基礎知識
　広がるデジタル情報の世界
3）情報と通信を支える技術
　半導体、ソフトウェア、ネットワーク
4）情報革命や通信革命がもたらすもの（光と影）
　電脳社会と仮想現実の世界
5）ネットワーク時代の課題と展望

［成績評価の方法］

数回のレポートとテストの総合評価。出席重視。

［参考文献］

島野　清志　著『情報・通信産業』　ぱる出版
井上　信雄　著『通信・ニューメディアがわかる事典』日本実業出版社

［教科書］

必要に応じて指示する。
・ビデオ教材と、プリント教材の配布

「論述作文」クラス一覧

クラス	担　当　者	頁	クラス	担　当　者	頁	クラス	担　当　者	頁
０１	青田　寿美	80	０６	杉岡　信行	82	１１	深見　純生	84
０２	青田　寿美	80	０７	滝澤　武人	82	１２	藤井　　肇	85
０３	片倉　　穣	80	０８	巌　　圭介	83	１３	藤原　　健	85
０４	倉本　　香	81	０９	国松　夏紀	83	１４	三浦　俊介	86
０５	佐藤　慶子	81	１０	山田　義顕	84	１５	山川　偉也	86

〔注意〕

1．実習的性格をもつ授業のため、１クラスの受講生は30名以内に制限する。従って応募者が定員を超えた場合、クラスへ参加できないことがある。

2．どのクラスも出席を重視する。一定の成果をあげるために、持続的な訓練が欠かせないからである。

3．授業を円滑に運営し、よりよい成果をあげるために、「クラス一覧表」のようなクラス分けを行う。

4．学則上、この科目は、共通自由科目（共通系）に位置づけられている。

5．募集は、次の日程で実施する。

〈申込受付〉学務課窓口

98Ｅ・Ｓ・Ｂ・Ｌ生…４月７日（火）９：20～15：00（11：30～12：30は昼休み）

97･96Ｅ・Ｓ・Ｂ・Ｌ生…３月31日（火）～４月１日（水）９：20～15：00（11：30～12：30は昼休み）

〈クラス発表〉４月13日（月）アンデレ館下掲示板

6．申込方法

・「論述作文予備登録票」に必要事項を記入して提出すること。

・希望するクラス３つ以内を記入のこと。ただし、同一クラスを記入しないこと。

・時間割コードとクラス名が一致しない場合は、時間割コードにより処理するので注意すること。

＜社会福祉学科生対象外＞

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
論述作文	01	通期	2単位	青田寿美
	02	通期	2単位	

［講義概要・学習目標］

〈書く〉という表現行為の背後には、特定の（時には不特定の）読者が存在する――自明のことながら、それを意識するか否か、この違いは大きい。なぜなら、読者という〈他者〉の存在を意識したときに、自らの文章がいかに読まれるかという問題に行き当たらざるを得ないからである。ここにおいてこそ、
「表現すべき自己内面を、いかに〈明快・明確・簡潔〉な文章で綴り、
読み手へと伝達するか。」
との自問が始まる。
本講義では、〈他者〉への的確な伝達機能としての文章表現力を体得することを目標とする。そのためには、何よりもまず自分の文章を多角的に眺め或いは距離をおいて見つめ直すこと、繰り返し書き直すことが必要となる。対象の有する問題点へ鋭く切り込んでゆく思考力を養うと同時に、それを論理的に組み立て叙述する力の養成を目指したい。

［講義計画］

＜前期＞
小論文作成のためのアウトライン・文段構成の基礎について概説。
毎時、原稿用紙２～３枚程度の文章を執筆する。
（６月の２週分を計算機センターでのワープロ実習にあて、以降は、常時センターを利用。）

＜後期＞
修了論文（原稿用紙15枚程度）の作成。
（夏期休暇中に、資料収集とブックレポートを課す。）

［成績評価の方法］

出席と、各時間ごとの課題提出を再重視する。

［教科書］

澤田昭夫著『論文のレトリック』（講談社学術文庫）

［参考文献］

木下是雄著『レポートの組み立て方』（ちくま学芸文庫）

＜社会福祉学科生対象外＞

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
論述作文	03	通期	2単位	片倉穰

［講義概要・学習目標］

「ちゃんとした日本語を書こうと思ったら、まず、勉強に本多勝一氏の『日本語の作文技術』を読め、これが私の持論である。」（多田道太郎）。
わたくしたちは、まず、本多氏の書を読んで、わかりやすい文章を書く秘訣を学び、つぎに、内容のある文章の書き方を身につけたいと思う。このため、ほとんど毎時間、ある課題で書くことが要求されるが、実践活動をとおして書く喜びを実感していただきたい。

［講義計画］（通年）

（１）はじめに ― この授業の目標と方針など
（２）自己紹介文
（３）作文の技術 ― 本多勝一『日本語の作文技術』を読む
（４）論文の書き方
（５）書評
（６）人生論 ― 「私の生きがい」「忘れ得ぬ人びと」
（７）討論と総評（中間）
《夏休みの課題》「小論文作成」（自由題）
（８）大学・教育論 ― 「大学の授業」「学歴の功罪」
（９）日本文化論 ― 「日本人について」「県民意識」
（10）社会論 ― 「少子化時代を考える」「環境問題」
（11）政治論 ― 「日本人の政治意識」「日本の政党政治」
（12）国際関係論 ― 「日本の国際化 ― その現状と問題点」
（13）自由題
《冬休みの課題》「小論文作成」（登録題）
（14）おわりに ― 討論と総評をかねて

［成績評価の方法］

出席状況、毎回提出の作文および夏・冬提出の小論文等により評価する。

［教科書］

本多勝一『日本語の作文技術』〈朝日文庫〉、朝日新聞社、1982年

［参考文献］

古郡廷治『論文・レポートのまとめ方』〈ちくま新書〉、筑摩書房、1997年

＜社会福祉学科生対象外＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
論述作文	04	通　期	2単位	倉　本　香

［講義概要・学習目標］

他人に何かを伝達するための文章は、明解かつ論理的でなくてはなりませんが、それだけでは不十分です。そこには、何か「伝えたい」内容が詰まっていなくてはなりません。文章を書くに際して、テクニックが重要なのはもちろんですが、「書きたい、伝えたい、内容」を探しだすことはもっと重要です。従ってこの授業では、文章の題材の提供は最小限に留め、書くテーマはなるべく皆さん自身に選んでもらうようにしたいと思います。そのために、一人一人と話し合い、何を書きたいか、どう書きたいかをじっくり探り合っていきたいと思います。授業では各自が自分のペースで書き進めていくようにするつもりです。

また可能であれば、完成した文章の相互評価を積極的に行いたいと考えています。

［講義計画］

前期はまず、文章に慣れ親しむことを目標とします。後期は文献検索、要約の仕方、文章の組み立て方について重点的に指導し、最終的には小論文の完成を目指します。

［成績評価の方法］

完成した文章の内容全てを評価の対象とします。

［教科書］

［参考文献］

＜社会福祉学科生対象外＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
論　述　作　文	05	通期	2単位	佐　藤　慶　子

［講義概要・学習目標］

便利で迅速な世の中にはなったが、そのために、かえって、不器用でも、ひとつの物事にじっくり取り組む姿勢が失われつつあるようだ。その一例が、自分の頭で考え、心で感じたことを、情熱を籠めて相手に伝えようとする努力の欠如であろう。二十四時間、衝動のままに、即座に相手を呼び出せる携帯電話の普及は、即興の軽妙な遣り取りの上達には効果があったとしても、より深く自身を理解してもらうために、まず必要な、社会のさまざまな出来事の中で、感じ、考えながら生きている自分を見詰め直す作業には不向きであった。人は書くことによって、初めて、形にならない思いや考えを、実体として捉えることができる。書き続けることで、考え方の跡を辿り、その方向性を見出すことができる。その上で、ようやく、相手に伝えるための、論理的な方法を探るという段階に到る。人にとって不可欠なコミュニケーションの最低条件である、「我を知る」訓練の場としたい。

［講義計画］

＜前期＞
①原稿用紙の使い方
②自分の思い、考えを、より正確に相手に伝えるための表現法
＜後期＞
①敬語の使い方
②礼儀正しく、心の籠もった手紙の書き方、電話のかけ方

［成績評価の方法］
①出席（最重視）
②前、後期末試験
③夏、冬期休暇中の課題
④提出物
⑤発表
⑥授業中の態度

［教科書］

市販のテキストは使用せず、講義中の板書と解説に、配付したプリントを合わせて、生涯、役に立つノート作りを目指す。

［参考文献］

適宜、紹介する。

<社会福祉学科生対象外>

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
論述作文	06	通　期	2単位	杉　岡　信　行

[講義概要・学習目標]

授業では、研究レポートや小論文が作成できるようになることを目標とする。原稿用紙の使用法から始めて、レポート作成に必要な文章表現やさまざまな知識を年間を通して学ぶ。その中では、本学図書館での文献検索の実習も含まれている。コンピュータによる文献検索に慣れていただきたい。
また授業では、計算機センターのパソコンにより、ワープロ原稿の入力を行う。データや文書が保存されているフロッピーディスクは必ず携帯してください。センターでの授業は月1回行う予定。

[講義計画]

〈前期〉初めに計算機センターでワープロガイダンスを受ける。また、授業中に、400字×2枚程度のレポートをできるだけたくさん書くようにする。夏期レポートは、400字×4枚程度を宿題とする。

〈後期〉いくつかのテーマを課題としながら、長いレポートが書けるようにする。最終レポートとして、400字×10枚程度を課す。

[成績評価の方法]

出席数、レポート作品数などから総合的に評価する。

[教科書]

木下是雄著『レポートの組み立て方』（筑摩書房/ちくま学芸文庫）

[参考文献]

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
論述作文	07	通　期	2単位	滝　澤　武　人

[講義概要・学習目標]

原稿用紙の書き方から始まり、とにかく文章をていねいに心をこめて書くということを最低限の目標とする。毎時間800字前後の文章を提出してもらい、評価と短評を付して返却する。「書く」という行為を通して、自分自身の生きかたについてなにほどか自覚的になってもらいたい。また他者の文章を「読む」ということも重視したい。

[講義計画]

毎回のテーマとしては、だれでもが書きうるようなもの、そしてどこかで自分の生きかたと関わるようなものを指示する。たとえば、「おいたち」、「思い出」、「恋」、「旅」、「音楽」、「職業」、「クリスマス」、「スポーツ」、「死」などである。
夏休みと冬休みには、4000～5000字の論文を書いてもらう。

[成績評価の方法]

平常点

[教科書]

尾川正二『原稿の書き方』（講談社現代新書）

[参考文献]

＜社会福祉学科生対象外＞

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
論述作文	08	通期	2単位	巖 圭介

[講義概要・学習目標]

「的確な日本語で自分の考えを人に伝える」こと、これは学校のレポートに限らず、日常にも、社会に出てからも、あらゆる場面で必要な能力である。事実に基づいて論理を展開し、自分の主張を相手に伝え納得させることのできる文章を書くことが、この講義の最終目標である。とくにここでは、文学や手紙のように心情的要素を含むものではなく、事実や状況に基づいた自分の意見をストレートに簡潔明快に述べる文章の書き方を修得してもらいたい。

[講義計画]

いろいろなテーマに沿って授業時間中に原稿用紙２～３枚の分量の論文をまとめるほか、他人の書いた文章を添削することで陥りやすい悪いクセを意識できるようにする。

[成績評価の方法]

出席は原則的に必須。論文の提出と、最終の論文の質で評価する。

[参考文献]

適宜授業中に示す。

[教科書]

なし

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
論述作文	09	通期	2単位	国松夏紀

[講義概要・学習目標]

論文とまでは行かなくても、一般に文章を書くのは難しい。何故難しいか？

それは、書いてみないとわからない。ジレンマである。しかし、書き慣れることによって多少ともその困難は、軽減される。或いは、益々難しいと判るだけかも知れない。しかし、それだけでも一つの成果である。

いずれにしても、理屈よりもむしろ実践を目標とする、「講義」というよりも「演習」と承知しておいてもらいたい。

[講義計画]

ほぼ毎回書くことになる。テーマはこちらで用意するもの、受講者が発案するもの、討議によって絞り出していくもの、いろいろである。

話題を見つけて行くためには、新聞・雑誌をよく読む週間を身に付けてもらいたい。つまりは、社会に対して、そして世界に対して目を開くこと。

そこから、「自分のテーマ」を発見してもらいたいのである。

[成績評価の方法]

提出され、添削・返却、改稿を重ねた文章の数々により評価する。従って、当然出席が重視されることになる。

[参考文献]

澤田昭夫著『論文の書き方』（講談社学術文庫）
澤田昭夫著『論文のレトリック』（講談社学術文庫）
木下是雄『レポートの組み立て方』（ちくま学芸文庫）

[教科書]

特に定めない。

<社会福祉学科生対象外>

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
論述作文	10	通期	2単位	山田義顕

[講義概要・学習目標]

最終的には、みなさんに論文の基本的な書き方まで習得していただければ、と思います。そのための予備的な作業として、できるだけ多くの文章を読み、また書いていただくことになりますが、あまりむずかしく考えずに、気軽に参加してください。

[講義計画]

前期は、毎回テーマに沿って文章を書くことになります。そしてみなさんの文章を比較検討しながら、文章表現のむずかしさ、おもしろさを話すことにします。テーマは、感想文からはじめて、随筆、新聞記事、論説などのうち、できるだけみなさんに関心のあるものを選びます。

後期は、少し長めの文章を書くことにし、記述の進め方、全体としてまとまりなどについて検討します。最後に、一年の集大成ともいうべき論文（1000字前後）の作成に向かうことにします。

[成績評価の方法]

出席・提出物によって総合的に評価します。

[教科書]

なし。

[参考文献]

必要に応じて、講義中に紹介します。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
論述作文	11	通期	2単位	深見純生

[講義概要・学習目標]

この講義の目的は、レポートの文章つまり論理的な文章を書くトレーニングを積むことである。目的は小説や手紙、またいわゆる随筆の文章ではない。上手できれいな文章を目指すのではなく、だれが読んでもわかりやすく、自分の考えを的確に伝えられる文章の習練が目的である。説得力のある文章を書くためには、事実に基づく文章を書く必要がある。したがって、文章を書く前に資料を捜し、読み、その内容を検討し考察することにも慣れねばならない。

毎回の授業のなかでは、与えられたテーマあるいは自ら選んだテーマで小レポートをまとめるようにする。他の学生のレポートとの相互比較、相互批判をとおして論理的でわかりやすい文章というものの認識を持ってもらいたい。後期には、長めのレポートが書けるように、レポート作成の要点の解説と実習をおこないたい。

[講義計画]

前期　教科書を読みながら、毎回なんらかのテーマで小レポートを書くことによって、わかりやすい、論理的な文章というものの認識を養い、技量を向上させる。

原稿用紙の使い方の再確認、事実判断と価値判断・意見の区別、テーマの設定と主題の限定、序論・本論・結論という構成などが主なテーマとなる。

後期　長めの（4000字程度）レポートの作成をめざす。テーマの設定、事実判断の基礎となる情報の獲得つまり資料の収集などの手順を経て、起承転結があって、出典（引用資料）が明記されているレポートの作成に挑戦してみよう。

[成績評価の方法]

①出席、②授業中の小レポート、③夏休みの課題レポート、④年度末のレポートを総合的に評価して成績をつける。

[教科書]

木下是雄『レポートの組み立て方』筑摩書房　1994年　（ちくま学芸文庫）

[参考文献]

＜社会福祉学科生対象外＞

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
論述作文	12	通期	2単位	藤井　肇

［講義概要・学習目標］

映像の時代とか感性の時代とかいわれますが、この教室では言葉を大事にします。人間が生物から人間になったのは、いうまでもなく言葉をもったからです。言葉によって考える。言葉によって表現する。人間であるかぎり、これはいつの時代も大事だと思います。私は長く新聞記者をしてきたので、文章はよく書いた方です。この体験をみなさんの学習に生かしたいと考えています。

［講義計画］

実作を中心に、できるだけ具体的に話を進めていきます。随時、テーマを出し、小論文あるいはエッセーを提出してもらいます。（800字程度）提出作品は添削して返します。

［成績評価の方法］

~~実践~~ 提出作品の評価を中心に。

［教科書］

辰濃和男（著）『文章の書き方』（岩波書店／岩波新書）

［参考文献］

講義計画原稿（学部）

＜社会福祉学科生対象外＞

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
論述作文	13	通期	2単位	藤原　健

［講義概要・学習目標］

言語の四技能と言われる「読む」「書く」「話す」「聞く」のうち、現代社会において、読む機会や聞く機会は多いのに、時に「書く」という機会は多くないように思われる。ことばを使って表現するのに大切なことは、言うまでもなく表現力を養い、それを伸ばすことであると考える。そのためには、ことばを知識として知ることだけでなく、正確な意味を理解し、正しい使いかたを身につけていかなければならない。

この講義・演習では、文章を書くことの基本から学び、レポートや論文を書くときの要領を考え、ことばや文章についての考察を行い、実際に何度も書いてみるという作業を通して、これからの大学での授業に役に立つような練習をしたい。

［講義計画］

1、文章表現の基礎
　1）用字法・用語法
　2）原稿用紙の使いかた
2、文章表現の演習
　1）テーマを決めて書く。
　2）レポートの書きかた
　3）小論文・論文の書きかた
　（自分・構成）
3、文章の構成
　1）内容・テーマ
　2）構成
　3）表現・表現
　4）推敲
　5）評価

［成績評価の方法］

授業の中で指示する課題・作業について、提出したものをもとに評価する。
詳しくは、授業初日に説明する。

［教科書］

河村清一郎・石丸嘉子・佐藤朝男（共著）『文章表現法』（おうふう（桜楓社））

［参考文献］

<社会福祉学科生対象外>

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
論述作文	14	通期	2単位	三浦俊介

[講義概要・学習目標]

本講義では、論文・レポートの書き方の習得を目標とする。
問題点の絞り込み、資料の収集、論理的思考、構成力など課題は多いが、
何よりも学生に求めたいのは文章の書き方そのものである。
大学時代の文章修行は社会に出てからも大いに役立つはずである。
前期はレポート・論文の書き方の基本を学び、何回か添削を受ける。
夏期休暇中に作成した小論文を後期の期間中に仕上げていく。

[講義計画]

〈前期〉原稿用紙の使い方や表記・表現の基本を学習する。
計算機センターでワープロソフトの講習を受ける。
夏期休暇中に小論文を書けるところまでもっていく。
〈後期〉夏季レポートを発展させて、10枚程度の修了論文を書き上げる。
配布資料や何名かの文章に対する学生相互の討論などを通して、
論文の書き方について実践的に学ぶ。
前後期とも、学生はワープロ原稿を提出し、三浦が添削指導を行う。

[成績評価の方法]

①毎回出席を取る。欠席・遅刻の過多は減点対象とする。
②全講義数の3分の1を欠席すると失格。
③正当な事由なく3回連続して欠席すると失格。
④講義中の提出物・夏季レポート・修了論文を重視する。

[教科書]

古郡廷治(著)『論文・レポートのまとめ方』(ちくま新書)筑摩書房

[参考文献]

木下是雄(著)『レポートの組み立て方』 (ちくま学芸文庫)筑摩書房
本多勝一(著)『実戦・日本語の作文技術』(朝日文庫) 朝日新聞社
加藤恭子ほか(著)『英語小論文の書き方』(講談社現代新書)講談社

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
論述作文	15	通期	2単位	山川偉也

[講義概要・学習目標]

論理的で明快な文章を表現する訓練を徹底して行なうこと。これがこのクラスの目的である。毎回の授業は、一定テーマの下に800字程度の文章を書くことに終始すると考えてもらっていいが、それだけに尽きるわけではない。提出された原稿はチェックされ、ワープロで書き直し、提出することが要求される。その繰返しが年間を通じて行われる。ただし、夏休みにはかなり長文の課題文の作成が義務づけられ(8000字程度)、授業修了時には最終論文として1,600字程度の論文を提出することが求められる。

[講義計画]

講義概要・学習目標に書いたことに尽きる。

[成績評価の方法]

毎回の授業ごとに評価がなされ、その年間の積み重ねが総合的評価となる。ただし、その評価には出席回数のことが含まれる。授業を3回以上欠席した者は、評価対象としない。つまり除籍する。

[教科書]

尾川正二『原稿の書き方』講談社新書

[参考文献]

「コンピュータ利用Ｉ」クラス一覧

クラス	担　当　者	頁	クラス	担　当　者	頁	クラス	担　当　者	頁
０１	後藤　敦史	88	０８	後藤　敦史	88	１５	田村　昶三	90
０２	後藤　敦史	88	０９	藤間　　真	88	１６	田村　昶三	90
０３	後藤　敦史	88	１０	藤間　　真	88	１７	田村　昶三	90
０４	後藤　敦史	88	１１	永田　淳次	89	１８	田村　昶三	90
０５	後藤　敦史	88	１２	永田　淳次	89	１９	初瀬　慎一	90
０６	後藤　敦史	88	１３	真庭　　功	89	２０	初瀬　慎一	90
０７	後藤　敦史	88	１４	真庭　　功	89	２１	初瀬　慎一	90
						２２	初瀬　慎一	90

〔注意〕

１．実習をともなう授業のため、１クラスの受講生は35名以内に制限する。従って応募者が定員を超えた場合、クラスへ参加できないことがある。

２．どのクラスも出席を重視する。一定の成果をあげるために、持続的な訓練が欠かせないからである。

３．どのクラスも今までコンピューターに触れたことのない者を対象として、初歩的なコンピュータリテラシーの伝授を行うことを目的としている。従ってコンピューターの経験をある程度持つ者は遠慮されたい。

４．授業を円滑に運営し、よりよい成果をあげるために、「クラス一覧表」のようなクラス分けを行う。

５．学則上、この科目は、共通自由科目（共通系）（２単位）に位置づけられている。

６．募集は、次の日程で実施する。

〈申込受付〉学務課窓口

98Ｅ・Ｓ・Ｂ・Ｌ生…４月７日（火）９：20～15：00（11：30～12：30は昼休み）

97･96Ｅ・Ｓ・Ｂ・Ｌ生…３月31日（火）～４月１日（水）９：20～15：00（11：30～12：30は昼休み）

〈クラス発表〉４月13日（月）アンデレ館下掲示板

７．申込方法

・「コンピュータ利用Ｉ予備登録票」に必要事項を記入して提出すること。

・希望するクラス３つ以内を記入のこと。ただし、同一クラスを記入しないこと。

・時間割コードとクラス名が一致しない場合は、時間割コードにより処理するので注意すること。

〈注〉経営学部生対象のプログラミング論Ｂと同時に履修することはできないので注意すること。

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
コンピュータ利用Ⅰ	０１ ０２ ０３ ０４ ０５ ０６ ０７ ０８	前期 後期 前期 後期 前期 後期 前期 後期	２単位 ２単位 ２単位 ２単位 ２単位 ２単位 ２単位 ２単位	後藤　敦史

［講義概要・学習目標］

情報化社会の発展により、我々の日常生活においてもさまざまな情報がさまざまな形態で流通している。我々はこれらの情報を自分なりに活用し生活している。

近年、より速い情報流通形態として注目されているコンピュータ・ネットワークでは、ネットワークにつながったコンピュータを使って誰もが情報を発信したり、ネットワークに流通する情報を活用したりすることができる。元来、「そろばん」であったコンピュータが計算のみならず、情報を検索、生産、加工、発信といった「読み」「書き」の道具としても使われている。ここで、「情報の発信」とは、自分の考えや情報を「受け手」へいかにわかりやすく伝えるかということである。

本講義では、コンピュータの概要を理解し、「電子文具」であるコンピュータを用いて、情報を効率よく処理し活用する方法や、受け手に情報を伝えるための表現方法を勉強する。

［講義計画］

入門コンピュータ ―――― コンピュータの概要と操作方法
コミュニケーション ―――― 電子メール
文書表現 ―――― ワープロ機能による文書作成と表現
データ処理 ―――― 表計算によるデータ分析と表現
情報検索と情報の再利用 ―― インターネット
情報加工と表現 ―――― マルチメディア文書の作成

以上のテーマについて数時間ずつの講義・実習を行う。

［成績評価の方法］

講義時の課題、レポート、出席により評価する。
講義内容が広範囲におよぶため、学生諸君の自主性も評価したい。

［参考文献］

桃山学院大学計算機センター（編）
『桃山学院大学計算機センターユーザーズガイド』

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
コンピュータ利用Ⅰ	０９ １０	前期 後期	２単位 ２単位	藤間　真

［講義概要・学習目標］

「読み書きソロバン」とは、古来からいわれている必要技能である。ところが、近年のコンピュータの高性能化、パーソナル化に伴い、コンピュータを操る能力もまた基本的な技能として要求されるようになってきた。

本講義では、初心者を対象に、コンピュータを操る基礎の練習を行う。具体的には、タッチメソッド（キーボードに目を向けずに両手で入力する技能）を中心に、ワープロ、表計算、電子メールの基礎を練習する。

本講義は、初心者に対するコンピュータリテラシーの伝授を目的としているので、コンピューターの経験を持つものは遠慮されたい。

また、実習主体の講義であり、自習も必要となる。積極的に出席した上で、自由時間を活用して自習を進めないと単位修得は困難である。登録時には、このことに留意した上で登録を行うこと。

［講義計画］

下記の項目について説明した上で、実習を行う。
・パソコンについて
・タッチメソッドの修得
・電子メール
・ワープロソフト
・表計算ソフト
・WWWブラウザーソフト

［成績評価の方法］

出席状況、実習の成果物の提出（数回を予定している）及び学期末の試験により評価する。

［教科書］

桃山学院大学計算機センター編　ユーザーズガイド

［参考文献］

進行状態に応じて指示する。

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
コンピュータ利用Ⅰ	11 12	前　期 前　期	2単位 2単位	永　田　淳　次

［講義概要・学習目標］

コンピュータはその名前が示す通り、計算が得意な機械として生まれてきた。このデータを高速で処理するという特徴を活かし様々な情報を処理する道具として発展してきている。現在では、電子メールに代表されるようにコミュニケーションのための道具としても普及し、さらに音や映像を扱うメディアとしても利用されている。

本講義は、初心者がコンピュータの概要を理解するとともにその周辺の知識を深めることを目標としている。また、コンピュータの基本的な操作を習熟するために、実習を中心に講義を進める。

［講義計画］

・コンピュータの概要と基本的な操作
・電子メールの送信、受信、返信
・日本語文書の作成
・表計算

［成績評価の方法］

3分の2以上の出席者を対象とし、提出レポートの評価。

［参考文献］

桃山学院大学計算機センター（編）『ユーザーズガイド』

［教科書］

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
コンピュータ利用Ⅰ	13 14	前　期 後　期	2単位 2単位	真　庭　功

［講義概要・学習目標］

インターネットに象徴されるように、高度なコンピュータ・ネットワーク社会に向けて、コミュニケーションをささえるテクノロジーが革新しています。
授業では、コンピュータ活用技法の習得を通して、ハードウェア、ソフトウェア、電子メール、インターネットやマルチメディアなどについて基礎的な知識を概説します。
さらに、パソコンを知的作業のための道具として活用し、問題解決能力やプレゼンテーション能力を養成します。

［講義計画］

1）パーソナル・コンピュータの概要
2）キーボード練習と基本操作
3）電子メールの基礎
4）インターネットの基本操作
5）ワードプロセッサーの活用
6）表計算ソフトの活用
7）データ分析とグラフ表現
8）その他の情報活用技法

［成績評価の方法］
出席重視。数回のレポートとテストによる総合評価。
予習復習などは時間外に行ってください。

［参考文献］
桃山学院大学計算機センター編『ユーザーズガイド』桃山学院大学
必要に応じて指示します。

［教科書］
必要に応じて指示します。
・教材は、主にプリントにて配布します。

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
コンピュータ利用Ⅰ	１５ １６ １７ １８	前　期 後　期 前　期 後　期	２単位 ２単位 ２単位 ２単位	田　村　昶　三

［講義概要・学習目標］

２１世紀は、「ネットワークの時代」と言われ、ビジネス社会ではパソコンは必要な「情報機器」となっています。情報技術（IT）の進展は秒進分歩しています。ネットワークの中におけるパソコンの役割を熟知することがビジネス実践で有効です。パソコンの基礎から学びましょう。

情報処理は大まかに(1)情報収集-(2)情報整理-(3)情報伝達-(4)情報保管蓄積－(5)情報検索の段階に分けられる。この中で(２)-(３)を中心にコミュニケーションの手段としてのパソコンをパソコン実習を通して基礎から勉強を始めます。

ビジネスで使われる文書･書類を中心に日本商工会議所検定試験（ワープロ・表計算）の受験を目標にする。検定合格レベルになるには相当な努力が要る。サポートしますので積極的に自習をしてください。

初心者を対象にパソコン基本操作から始めます。パソコンの基礎の基礎といわれる所を充分に身につけ、あとは自分で努力することにより身につきます。　そのknow-howも勉強します。

［講義計画］

１．パソコンについて
２．パソコンの基本操作（キータッチ）
３．ワープロソフト（文字入力、文書作成編集、美しい文書表現）
４．表計算（データとグラフ）（データ入力、表の作り方、グラフ作成）
５．パソコン通信の活用（仕組み、電子メール、電子会議）
６．インターネットの利用（システム、WWW、電子メール）
７．その他（情報保管蓄積、情報検索）

［成績評価の方法］

出席が３分の２以上で、レポート提出、理解度テスト、学期末試験により評価する。

［参考文献］

桃山学院大学計算センター（編）『ユーザーズガイド』

［教科書］

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
コンピュータ利用Ⅰ	１９ ２０ ２１ ２２	前　期 後　期 前　期 後　期	２単位 ２単位 ２単位 ２単位	初　瀬　慎　一

［講義概要・学習目標］

情報化社会は非常に速いテンポで進化し、我々の生活にもさまざまな形で影響を与えている。近年のコンピュータの高性能化、パーソナル化に伴って、コンピュータを操る能力は現代社会においては基礎的な技能として要求されている。

授業では、コンピュータを「電子文房具」として活用するのに必要な知識の獲得を目的としパソコン実習を通して、ハードウエア、ソフトウエア、ネットワークやマルチメディアについて、また表計算、ワープロソフト、インターネットの利用等を学習する。

［講義計画］

1. パーソナルコンピュータ(パソコン)の概要
2. コンピュータの基本操作、キーボードレッスン
3. インターネット
4. 電子メールとネチケット
5. オフィスツール(ワープロ・表計算)の利用
6. その他の情報活用法

［成績評価の方法］

提出レポートの評価を中心に試験との総合評価を行う。出席は3分の2以上であること。

［参考文献］

桃山学院大学計算機センター(編)『ユーザーズガイド』

［教科書］

開講時に指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
コンピュータ利用11		通期	4単位	藤間　真

［講義概要・学習目標］

本講義の目的は、基本的なコンピュータ・リテラシーを修得しているものに対し、さらに高度なコンピュータ利用技術を伝授することにある。
コンピュータ技術は、現在凄まじい勢いで進化し、変化している。よって本講義では、単純に現在何ができるかを伝授するだけではなく、新しい技術に対応するための素養の伝授、計算機を使って自分は何をするのかということへの考察をも行う。

履修登録に際しては、下記の点を理解した上で登録されたい：
・具体的な計画は右欄の通りであるが、コンピュータの世界の変化と実習の進展の状態に応じて変更することもありうる。
・計算機センターの施設を用いた実習が主体となる。
・初心者に対するコンピュータリテラシーの伝授を目的とはしていない。コンピューターの経験を持たないものにとってはハードな講義となる。
・実習主体の講義であり、自習も必要となる。
・基本的には連絡は電子メールで行う。

［講義計画］
＜前期＞
・ホームページを作ってみる。
・プレゼンテーション・ソフト
・unixの基礎
＜後期＞
・オブジェクト指向とJava

［成績評価の方法］
学年末レポートを主に、平常成績を考慮し、総合的に評価する。

［教科書］
進行状況に応じて指示する。

［参考文献］
進行状況に応じて指示する。

＜社会福祉学科生対象外＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
有限数学	01	通　期	4単位	後　藤　邦　夫

［講義概要・学習目標］

「有限数学」は、有限個の記号あるいは数値に、有限回の加減乗除の演算をほどこすことで成り立つ。ひとつひとつの演算は小学校で学んだ算数とほとんど変わらない。従来、それで少し高級な問題を扱おうとすると、計算の過程が複雑で面倒になる。そこで、人々は楽な方法を求めて「高級な数学」を考え出して使った。ところが、面倒を厭わず単調な計算の繰り返しを早く正確にやってくれるコンピュータが出現したおかげで、小学校的数学を改良した「有限数学」でも、かなり高度な問題を扱えるようになった。そのような数学を学ぶのがこの授業の目標である。それによって、ノーベル賞の対象になったような数理的な社会科学や、ゲーム理論のような今世紀最大の数学的成果のひとつにも接近できる。また、このような数学は構造が単純であるため、「数学と言語」、「数学と論理」など、基本的な問題を学ぶのにも適している。授業全体を通じて、諸君の計算力の向上と共に、そのような基本的問題に対する認識の深化を期待する。

［講義計画］
前期：
数学の基礎と線形代数の初歩
（1）集合、群、体、論理、確率など、数学における基礎的な概念を、有限の範囲の平易な例によって順番に導入して行く。
（2）その後で、簡単な行列の計算法など、有限数学の中心ともいうべき「線形代数」の入門部分を学ぶ。

後期：
線形代数の応用
（1）グラフ理論、ゲーム理論、マルコフ連鎖、レオンチェフ・モデルなどを問題を易しい事例によって学ぶ。
（2）学習の進捗状況によっては、数式処理言語マセマティカを用いて、コンピュータによる解き方を学ぶ。
（3）さらに学習が順調に進めば、簡単な群論とその応用問題を解説する。

［成績評価の方法］
数学は「言葉」に似ている。言葉を学んで易しい会話も出来ないのでは困るのと同様、数学を学んだら計算が出来なければならない。前期と後期の終わりの試験では、易しい問題を沢山解いてもらって諸君の「腕の力」の向上の程度を評価したい。

［教科書］
前期：使用しない。
後期：ローレス、アントン「やさしい線形代数の応用」（現代数学社）

［参考文献］
ローレス、アントン「やさしい線形代数」（現代数学社）
古谷茂「行列と行列式」（培風館）
二階堂副包「経済のための線形数学」（培風館）

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
有限数学	02	通　期	4単位	藤間真

［講義概要・学習目標］
小中高と学んでくるうちに数学が嫌いになった人は多いでしょう。無味乾燥で現実と無関係だという印象を持っている人も多いと思います。
ところが、歴史的には、数学は、無味乾燥な知識体系として突然出現したのではなく、他人と理性的に合意に達するために、筋道立てて議論を進めることや定量的に物事を扱うことから発展した知識体系です。
本講義の目的は、そのような側面、すなわち、理性的に理解を進め、他人と合意に達するための道具としての数学に光を当てることにあります。

まず、筋道をたてて考えたり表現たりすることの基礎付けである論理学の基礎を扱います。
続いて現代数学の基本的道具ともいえる集合論の基礎を扱います。
後期はいくつかの数をまとめて扱うために、普通の数の概念を拡張する、という視点からベクトルと行列を扱います。
高校での数学の知識は要求しません。内容的には高校までの数学と重複することもあるでしょうが、まったく新しい切り口で扱います。

なお、連絡は掲示によって行いますから、常に掲示に留意してください。

［講義計画］
＜前期＞
・論理の基礎
・集合論の基礎
＜後期＞
・数ベクトルについて
・行列の基礎
・応用

［成績評価の方法］
学年末試験の成績を中心に、平常成績を考慮して評価する。

［教科書］

［参考文献］
細井勉著、新曜社、「教養の数学」
大村平著、日科技連出版社、「論理と集合のはなし」
大村平著、日科技連出版社、「行列とベクトルのはなし」

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
解析学		通　期	4単位	藤間　真

［講義概要・学習目標］
小中高と学んでくるうちに数学が嫌いになった人は多いでしょう。無味乾燥で現実と無関係だと印象を持っている人も多いと思います。

ところが、歴史的には、数学は、無味乾燥な知識体系として突然出現したのではなく、他人と理性的に合意に達するために、筋道立てて議論を進めることや定量的に物事を扱うことから発展した知識体系です。

本講義の第一の目的は、変化を定量的に扱うための学問である微分積分学の初歩を伝授することです。
第二の目的は、数学を扱う数式処理ソフトウエアの使用法に慣れることにより、実際に数学的知識を利用する素地を作ることです。

高校での数学の知識は要求しません。内容的には高校までの数学と重複することもあるでしょうが、まったく新しい切り口で扱います。

なお、連絡は掲示によって行いますから、常に掲示に留意してください。

［講義計画］
＜前期＞
・Macintoshの初歩
・Mathematicaの初歩
・関数とは
・関数の実例
・極限とは
・微分とは

＜後期＞
・微分とは（承前）
・積分とは
・応用

［成績評価の方法］
学年末試験の成績を中心に、平常成績を考慮して評価する。

［教科書］
開講時に指示する。

［参考文献］
遠山啓　著　数学入門（下）　岩波新書

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
総合講座Ⅰ (神話と物語のディスクール)		後　期	2単位	深　澤　　徹

［講義概要・学習目標］

私たちは日々の生活の中で、それと意識せずに、ある特定のパターンに基づいた行動をする。物事を見たり、聞いたり、判断したりしながら日々の生活を営んでいるのだが、そこには自ずからなる「思考」の、もしくは「行動」のパターンが潜在している。普段は意識することのない、そうした「思考」や「行動」のパターンを、まずは自覚することから始めなければならない。そうした「思考」や「行動」のパターンは、しばしば「文化」とか「イデオロギー」とか呼ばれたりするのだが、そうした「文化」や「イデオロギー」に基づく個々人の「思考」や「行動」のパターンには、なぜそうなのか、なぜそうした考え方や行動をするのかということについて説明する大きな＜物語＞が、必ず付随している。その大きな＜物語＞を、つまりはそれと意識されることなく＜神話化＞された大きな＜物語＞を白日の下にさらけ出す作業が次には行われるであろう。そしてこの大きな＜物語＞に対して、どれだけ自分の個別的な小さな＜物語＞を書き加えることができるか。それが本講義の到達目標であり、学習目標である。

［講義計画］

最初に＜神話＞と＜物語＞とはそれぞれ何か、その違いと共通点について、チーフである深澤が、数回にわたって講義する。これがいわゆる「総論」の部分に当たる。ついで個別の様々な事例に当たりながら、ゲスト講師による「各論」が展開する。個別の講義内容については、詳細なシラバス（講義計画書）を講義の始めの方で配布する。

［成績評価の方法］

毎回出席を取るのでその出席状況、及び学年末に試験を行い、総合的に評価する。

［教科書］

特に定めない。

［参考文献］

特に定めない。

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担当チーフ
総合講座Ⅰ （一神教の系譜）	01 02	前　期 9月集中	2単位 2単位	滝　澤　武　人

［講義概要・学習目標］

古代の西アジア（いわゆる中近東）においては、世界的な大宗教が数多く成立した。「旧約聖書」の流れの中からは、ユダヤ教・キリスト教・イスラム教という宗教が生まれ、現代においてもなお世界中の多くの人々に有形・無形（意識的・無意識的）のきわめて大きな影響を与えつづけている。さらに紀元前7世紀頃に古代イランに誕生したゾロアスター教もまたきわめて重要な宗教である。

これら四つの宗教は、いずれも西アジアの砂漠的な風土の中から生まれた一神教の宗教である。この総合講座においては、それぞれの宗教の専門家である4人の講師がそれぞれの宗教に関する最低限のコンパクトな教養としての知識を授けることを目標とする。各宗教の創始者・教典・教義・歴史・現代的意義などをできるだけ簡潔に入門的に紹介する。日本人には余りなじみのない古代世界の宗教に関心の有する真面目な学生諸君の積極的な受講を期待している。

［講義計画］

ゾロアスター教（3回）
ユダヤ教（3回）
キリスト教（3回）
イスラム教（3回）

［成績評価の方法］

試験、レポート、感想文、受講姿勢などを総合的に評価する。

［教科書］

特に指定しない。

［参考文献］

各講師がその都度指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担当チーフ
総合講座Ⅰ （スポーツと社会）		前　期	2単位	松浦道夫

［講義概要・学習目標］

かって、イギリスのスポーツ史家J．ストラッドが「スポーツは社会の鏡である」と述べたように、スポーツは大きな社会現象となりました。マスコミで、スポーツニュースや番組のない日は皆無といって良いでしょう。現代はスポーツや芸能の世紀ともいえるほどになりました。そしてスポーツの人文・社会科学的分野での研究も盛んになってきました。そこでそれらの成果を踏まえて「スポーツと社会」の関係について「世界の主要国家単位」で、歴史的背景もあわせてながら考察し、論じます。

［講義計画］

＜前期＞　世界の主要国家と日本のスポーツ事情について、１２～１３回の予定で講義します。
１回目の講義で各テーマ、担当者の紹介をしますので、注意してください。

［成績評価の方法］

テーマごとのエッセイと最終講義日のテストで評価します。ただし、受講生が多い場合は変更します。

［教科書］

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担当チーフ
総合講座Ⅰ （スポーツをめぐる諸問題）		後　期	2単位	松浦道夫

［講義概要・学習目標］

前期の国家単位の問題に続いて、近代、現代を通してのスポーツの社会諸問題について、個々にテーマを設定して考察します。政治・経済・法律・教育・倫理・宗教・民族性・国民性・風土・気候・生活・文化・戦争・平和・人権など、スポーツに関連する社会科学的・人文科学的分野での問題は多様で多面的です。この意味で「スポーツと社会」について考察することは、人間集団について研究することにもなります。みなさんと共に「スポーツ学」「人間学」にアプローチしてみたいと思います。

［講義計画］

＜後期＞　宗教・女性・子ども・障害者・学生・近代オリンピック・ワールドカップ・各種目リーグなどの諸問題をスポーツとのかかわりで論じます。
１２回の予定で講義します。
１回目の講義で各テーマ、担当者の紹介をしますので、注意してください。

［成績評価の方法］

テーマごとのエッセイと最終講義日のテストで評価します。ただし、受講生が多い場合は変更します。

［教科書］

［参考文献］

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担当チーフ
総合講座Ⅱ （コスモロジーと文化）		通　期	4単位	後藤邦夫

［講義概要・学習目標］

コスモロジーは普通「宇宙論」と訳される。しかし、その原義（ギリシャ語）は「秩序」と「言葉・論理」の合成である。したがって、コスモロジーは、人間をふくむ世界を「秩序ある総体」として明晰に表現したものとみなすことが出来る。ここに、秩序の概念、総体なるものの意味、それらの明晰な表現などが問われることになる。それらは、人類のさまざまな「文化」に即して設定され、その核心をなすものである。古代オリエント、古代ギリシャ、古代中国、古代インド、キリスト教的西欧等の主要な伝統文化のみならず、西欧近代が拓いた「科学的宇宙論」においても同様である。いずれも、なにがしかの経験に立脚した個別的認識に基づいてはいるが、それぞれに世界の普遍的な質を文化に裏付けられた秩序において見い出そうとしたのである。この講座は世界に関するそのような認識について学ぶための入門である。

［講義計画］

授業計画（前期）
古代オリエント、古代ギリシャ、キリスト教を含むヘレニズム、古代中国、古代インド、等の文化とコスモロジーを扱う。

授業計画（後期）
ヨーロッパの中世と近代の文化とコスモロジー、現代科学に基づくコスモロジーを扱った後、人間を含む世界の秩序構造に関する様々なモデルと思想について考える。

［成績評価の方法］

ほぼ、毎時間クイズを課し、全体の範囲に対して期末にテストを行なう。評価は基本的には期末テストによるが、毎回のクイズの成果はボーダーライン上において考慮されることがある。また、レポートの提出を求め、優れた内容のものがあれば評価に加える。

［教科書］

使用しない。必要に応じプリント等を配付する。

［参考文献］

それぞれの問題について、おびただしい良書がある。講義に際して配付するシラバスでその一部を挙げるが、他はテーマごとに授業中に示す。

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担当チーフ
総合講座Ⅱ（泉州の今昔）		通　期	4 単位	松浦　玲

［講義概要・学習目標］

大学キャンパスのある和泉市は、和泉国すなわち「泉州」の中心地である。その「泉州」の歴史と現在、また将来の発展可能性を、地元の研究者・郷土史家、また本学教員のリレー講義で明らかにする。通年講義とする。

［講義計画］

１０人を越える講師のリレーとなるが、おおまかには過去から現在へ、更に将来構想と、時間軸を追っていく。

［成績評価の方法］

受講者が多ければ試験、少なければレポート。

［教科書］

使わない

［参考文献］

各講師がそれぞれ必要に応じて挙げる。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
日本事情（外国人留学生用）		通期	4単位	藤原 健

[講義概要・学習目標]

外国人学生が日本語をひととおり学習し、語学的な能力においては特に問題がないのに、日本人とのコミュニケーションがうまく行かないという声をよく聞く。これには いろいろな原因が考えられるが、ひとことで言えば、言語に必ず伴っている文化的な知識が不十分であるからと言えるだろう。つまり、外国人学生にとって、日本語が単に語学的な面だけで、文化的な事象をしょうぶんに知らずに習得され、そして日本社会の中で暮らしているということから起こると考えられる。

したがって、外国人学生が日本人とのコミュニケーションの中で少しでもギャップをうめられるよう、日本の歴史、日本人の生活、日本の社会、文化などを概観し、日本人なら誰でも知っている事柄を習得してもらうことから始める。また、文化の側面として代表的な文学作品を古典および近代・現代の中からいくつか抜粋して講読したり、古典芸能の能・狂言・歌舞伎などの中からひとつを選んでビデオで鑑賞したりしたい。

[講義計画]

授業においては、講義として「講義概要」に述べたテーマについて、適宜コピーを配布して説明する。また、資料やビデオなどを用いて、具体例に触れてもらう。

とはいえ、教室で行えることには限界があるので、講義の内容に合わせて自分で美術館や博物館等を調べ、みずから計画を立て、後期開始までに1回、後期終了までに1回、合計2回、日本国内の美術館・博物館・史跡記念物等を展示した資料館を見学することとし、そこで見学したことをまとめてレポートとして提出することを課題とする。

[成績評価の方法]

「講義計画」に記したレポート（2回）と、前期・後期（各1回・予定）の試験により評価する。

詳しくは、授業初日に説明する。

[教科書]

使用しない。

必要に応じて、資料等をコピーし、配布する。

[参考文献]

松井嘉和・松本吉郎(共著)『日本語学習者のための日本文化史』（凡人社）

学習研究社編『JAPAN AS IT IS（日本ダテヨコ）改訂第3版』(学習研究社)

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
言語学		通期	4単位	清水真一

[講義概要・学習目標]

「人間言語とは何か」をテーマとする。言語は我々にとってあまりに身近なものであり、この問いが真剣な考察の対象となることはあまりなかったのではなかろうか。本講では、科学としての言語学とその隣接分野を視野に含めながら、言語をマクロな視点で眺めると同時に、できうる限り明示的なかたちで言語にアプローチしてみたい。そのため、考えうる思考法と、分析の道具の基本から話を始め、「言語」に対する複数個のアプローチを紹介したい。あまりに身近な存在であると同時に人間を人間たらしめている言語につき、受講生各位に今一度思索を促し、各自各様の考えを醸成する契機となれば幸いである。

出席は特に重視する。

[講義計画]

(1) 人間言語とは？---他の「コミュニケーション」システムとの比較論的考察---

(2) 数理論的準備

① 集合論

② 論理学と形式システム

③ 言語、文法、オートマトン入門

(3) 言語システム瞥見

① 「生成文法」

② 句構造文法

[成績評価の方法]

原則として、定期試験、クイズ、出席に基づき総合的に評価する。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考文献]

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
論理学		通　期	4 単位	山　川　偉　也

［講義概要・学習目標］

論理的に考えることは、ものごとを学習するうえで基本的に大切なことである。しかし、いまの大学生の現状を観察していると、その基本のところが必ずしも充分でないふうに思われる。この講義は、その点の改善にいささかなりとも寄与しようとするものである。したがって、高度な論理学研究のことはひとまず置き、ごく初歩的な、しかも日常生活にもすぐ役立つ論理の基本のところを講義することを主眼とする。ただし、講義とは言っても、論理は訓練が肝心であるから、授業時間の半分は練習問題への取り組みで費やされることになるだろう。また、こうした漸進的な授業の性格もあって、毎回教室に顔を出していないと何をやっているのか分からないことになってしまうので、単位をきちんと取るつもりなら、授業には欠かさず出席することが必要である。

［講義計画］

前期
1．日常生活のなかの論理
2．思考の法則
3．命題の論理
4．試験

後期
1．簡単な復習
2．述語の論理
3．様相の論理
4．試験

［成績評価の方法］

毎回の出席、小テスト、期末試験の成績を総合して評価する。

［教科書］

教科書は今のところ定まっていないが、論理学を教科書なしでやるのは学生諸君にとっては辛いことなので、何とかしたいと考えている。決まり次第に授業時間中に知らせるようにする。

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
倫理学		通　期	4 単位	倉　本　香

［講義概要・学習目標］

「私は何をなすべきか」、「私はいかに生きるべきか」と考えたことはありますか？　私達は行為の仕方の善悪をどのように決めることができるのでしょうか。あるいは、そもそも私達は自分の行為を自由に選択することができるのでしょうか。それが可能であるとするならば、どのような意味においてでしょうか。

まずはじめに「自由な意志」について考えてみたいと思います。というのは、人間が行為の仕方を自らの意志で自由に選択できてこそ、それに対して善悪を問う、という倫理的問題が生じるからです。

ところが近代以降、この「自由な意志」を持った人間は、一体何を選択してきたのでしょうか。近代的な人間の成立とともに出現した倫理的問題を、現代に至るまで跡付けてみます。これらの問題の考察が契機となって、皆さんが自分の行為や生き方を複数の視点から自覚的に選び取ることができるようになることを望んでいます。

［講義計画］

1．自由、自律の思想（カント）
2．コミュニケーションの倫理
3．「学ぶ」ことと「生きる」こと
4．本来的な生き方とは何か（ハイデガー）
5．近代的主体の成立（フーコー）
6．近代的主体の問題（ナチズムの思想、生命倫理の諸問題）
7．功利主義の思想と現代倫理の問題

［成績評価の方法］

レポート、自己評価

［教科書］

［参考文献］

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
現代思想		通期	4単位	山崎充彦

［講義概要・学習目標］

「20世紀は戦争と革命の世紀である」とはすでに今世紀半ばに言われたことである。あと3年足らずで21世紀なろうとする今日から振り返っても、この世紀が様々な顔を持っていることが明らかになろう。戦争・革命・冷戦・技術革新・大衆社会・魔女狩りなど、20世紀を形容する言葉は様々であり、とても一言で表現できるものではない。社会が多様な姿をしていれば、そこから生まれる思想もまた多様な姿をとるようになる。
この講義では、多様な姿を見せる20世紀の思想を概観し、その歴史的あるいは社会的な意味を考える。対象とする地域は、担当者の専門上、主としてヨーロッパとするが、必要に応じて比較思想史的な分析を取り入れたいと考えている。

［講義計画］

（前期）
1、ヨーロッパ世紀末
　～19世紀末の思想状況
2、ヨーロッパ知識人の危機意識
　①P・ヴァレリーにおけるヨーロッパの危機
　②E・クルツィウスにおけるドイツ精神の危機
3、革命の思想

（後期）
4、ナチズムとユダヤ人問題
　～知識人とナチ
5、戦後処理をめぐって
　～「ナチズムは特殊か否か」の論争
6、比較思想の観点から
　～同時代人として20世紀思想をどう考えるか

［成績評価の方法］

定期試験によって行うが、ある程度の水準の答案を要求する。

［参考文献］

授業中に指示する。

［教科書］

使用しない。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
日本近代思想史		通期	4単位	松浦玲

［講義概要・学習目標］

前近代の思想から近代思想に頭を切替えなければならない激動期に生きた人物群の中から勝海舟を取上げる。ペリー来航のとき31歳、幕府倒壊の戊辰戦争のとき46歳だった海舟は、明治32年77歳まで生きて、福沢諭吉とは違うタイプの近代思想を語り続けた。教科書指定はしないが月刊誌『論座』に勝海舟評伝「遙かな海へ」を連載中なので、講義に並行して読むと理解が進む。

［講義計画］

幕府を内側から倒した海舟が、薩長藩閥の支配する明治政府をどのように見たか。西南戦争で敗死する西郷隆盛と親友であることを強調し、西郷は征韓論ではないと言い続ける独特のアジア主義。その時期を追っての展開を探求する。

［成績評価の方法］

受講生が多ければ試験、少なければレポート

［参考文献］

講義の進行に従って挙げていく。

［教科書］

使わない

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
心理学	01	通　期	4単位	冷　水　啓　子

［講義概要・学習目標］

1　心理学の概要を理解させる。
2　乳幼児期・児童期・青年期・老年期等人間の発達段階のそれぞれの時期に特有な身体的、心理的特徴について理解させる。
3　心理学理論による人間理解とその技法の基礎について理解させる。
4　心理的援助技法の概要について理解させる。

［講義計画］

1　人間の心理学的理解
　1）欲求・動機づけと行動
　2）感情・情動
　3）感覚・知覚・認知
　4）学習・記憶・思考
　5）知能・創造性
　6）人格
　7）適応と適応異常
2　人間の成長・発達と心理
3　人間理解のための心理学理論と技法
　1）基礎理論
　　①精神分析
　　②行動分析
　2）測定と診断
　　①発達
　　②知能
　　③性格
4　心理的援助技法の概要
　1）心理療法（個別面接法・集団面接法）
　2）家族心理療法
　3）行動療法

［成績評価の方法］

前期末と後期末に試験を実施する。必要に応じて、簡単な実験・調査への参加、レポート提出などを求める。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。

［教科書］

追って指示する。

［参考文献］

市川伸一（編著）『心理測定法への招待』（サイエンス社）
井上健治（著）『子どもの発達と環境』（東京大学出版会）
岩田純一・梅本堯夫『教育心理学を学ぶ人のために』（世界思想社）
中島義明（編）　『メディアに学ぶ心理学』（有斐閣）
河合隼雄・山中康裕（編）　『臨床心理学入門』（日本評論社）
福祉士養成講座編集委員会（編）『心理学』（中央法規）
松原達哉（編著）『最新　心理テスト法入門』（日本文化科学社）

＜社会福祉学科生対象外＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
心理学	02	通　期	4単位	伊　藤　高　章

［講義概要・学習目標］

Psychology という語は、語源的には魂（たましい）もしくは霊（れい）に関する学問という意味である。そして、人類の歴史においてこの魂や霊のことがらは、長く宗教が扱ってきた。本講義では前期において、宗教と心理学との関係を明らかにしてゆくことを通し、近代心理学のもつ人間観の特徴を理解することを目指す。その際特に、フロイトとユングが展開した無意識に関する理論に注目する。後期においては、他者の魂の声に耳を傾ける姿勢を養う意味で、カウンセリング及び「カウンセリング・マインド」について学ぶ。

［講義計画］

以下の内容を含む
＜前期＞
諸宗教における心のケア
フロイトの宗教観・人間観
ユングの宗教観・人間観
近代心理学の展開
＜後期＞
カウンセリングの人間観
カウンセリング理論の前提
カウンセリングの理論

［成績評価の方法］

出席を重視する。学年末試験。

［教科書］

C. G. ユング（著）『自我と無意識』（レグルス文庫 220）、第三文明社 1995
平木典子（著）『カウンセリングの話 増補』（朝日選書 375）、朝日新聞社 1989

［参考文献］

随時指示する